

2019年度
事業報告書

自 2019年4月 1日
至 2020年3月31日

社会福祉法人 愛光園

2019年度の主な事業報告

社会福祉法人 愛光園

社会福祉事業

新規事業

- ありません

主な内容

- 船井総合研究所に加わってもらい、中期計画を作成しました。
- 同一労働同一賃金への対応のため、十六総合研究所に関わってもらいながら、分析検討しました。
- 旧職員宿舎の一部を改装しました。
- 知多地域障害者生活支援センターらいふの日中一時支援事業を廃止し、放課後等デイサービスを移転しました。
- 大府市発達支援センターおひさまの指定管理の更新の準備を行い、大府市から引き続き指定を受けることになりました。それを機に放課後等デイサービスを廃止しました。
- 愛光園地域居住サポートセンターで、共同生活住居の住み替えを行いました。
- 技能実習生を、フィリピンから介護分野で、ベトナムから給食分野で、それぞれ2名受け入れました。

公益事業

新規事業

- ありません

主な内容

- 船井総合研究所に加わってもらい、中期計画を作成しました。
- 同一労働同一賃金への対応のため、十六総合研究所に関わってもらいながら、分析検討しました。
- 相生の第3期改修工事を行いました。

収益事業

実施していません。

以上

事業報告付属明細書

社会福祉法人 愛光園

- 該当ありません

以上

社会福祉法人事業報告書
2020 年3月31日現在

基本情報

所轄庁	都道府県														
法人名	社会福祉法人 愛光園		〒 470 - 2102		愛知県知多郡東浦町大字緒川字東米田33番3		電話番号		0562 - 83 - 9835		FAX番号	0562 - 83 - 4344			
ホームページアドレス	http://www.aikouen.jp/index.html		メールアドレス		honbu@aikouen.jp		設立認可年月日		昭和48年1月10日		設立登記年月日		昭和48年3月3日		
代表者	氏名		年齢		住所		職業		就任年月日						
	日高 幸子		公表		80		公表		愛知県知多郡東浦町大字緒川字東米田1番地		無職		平成3年5月18日		

事業

社会福祉事業	種類	施設名・事業所名	所在地	事業開始年月日	定員	実施形態	
						各分野の事業が同一施設(敷地)で実施	全ての事業が同一施設(敷地)で実施
児童福祉	障害児通所支援事業	児童発達支援	大府市発達支援センターおひさま	大府市江端町6丁目19番地	平成17年4月1日	30	
	障害児通所支援事業	保育所等訪問支援	大府市発達支援センターおひさま	大府市江端町6丁目20番地	平成27年4月1日		
	障害児相談支援事業	障害児相談支援事業	大府市発達支援センターおひさま	大府市江端町6丁目19番地	平成27年4月1日		
	障害児通所支援事業	放課後等デイサービス	大府市発達支援センターおひさま	大府市江端町6丁目19番地	平成17年4月1日	10	
	障害児通所支援事業	放課後等デイサービス	知多地域障害者生活支援センターらいふ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成27年4月1日	10	
	障害児相談支援事業	障害児相談支援事業	知多地域障害者生活支援センターらいふ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成29年4月1日		
	障害児相談支援事業	障害児相談支援事業	こだま	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	平成25年12月1日		
老人福祉	老人デイサービス事業	老人デイサービス事業	こぶし	知多郡東浦町大字緒川字上苅又池58番地1	平成12年5月1日	30	
	老人居宅介護等事業	老人居宅介護等事業	相生ヘルパーステーション	知多郡東浦町大字緒川字上苅又池58番地1	平成12年5月1日		
	認知症対応型老人共同生活援助事業	認知症対応型老人共同生活援助事業	もくせいの家	知多郡東浦町大字緒川字上苅又池58番地1	平成12年4月15日	18	
障害者福祉	障害者支援施設	障害者支援施設	ひかりのさとのおどみの家	知多郡東浦町大字緒川字東米田56	昭和53年5月1日	40	
	障害者支援施設	障害者支援施設	まどか	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	昭和60年4月1日	40	
	障害福祉サービス事業	生活介護事業	ひかりのさとのおどみの家	知多郡東浦町大字緒川字東米田56	昭和53年5月1日	50	
	障害福祉サービス事業	生活介護事業	まどか	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	昭和60年4月1日	40	
	障害福祉サービス事業	短期入所事業	ひかりのさとのおどみの家	知多郡東浦町大字緒川字東米田56	平成4年4月1日	4	
	障害福祉サービス事業	短期入所事業	まどか	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	平成4年4月1日	空床	
	障害福祉サービス事業	生活介護事業	障がい者活動センター 愛光園	知多郡東浦町大字緒川字下米田37-8	平成1年4月1日	36	
	障害福祉サービス事業	生活介護事業	阿久比町立もちの木園	知多郡阿久比町大字卯坂字下同志鐘40-3	平成24年3月1日	10	
	障害福祉サービス事業	就労継続支援事業B型	阿久比町立もちの木園	知多郡阿久比町大字卯坂字下同志鐘40-3	平成24年3月1日	10	
	障害福祉サービス事業	生活介護事業	ひかりのさとファーム	知多郡東浦町大字緒川字下米田37-4	平成11年4月1日	20	
	障害福祉サービス事業	就労継続支援事業B型	ひかりのさとファーム	知多郡東浦町大字緒川字下米田37-4	平成11年4月1日	20	
	障害福祉サービス事業	就労移行支援事業	就職トレーニングセンター	大府市共和町7丁目83番地	平成23年5月1日	20	
	障害福祉サービス事業	就労定着支援事業	就職トレーニングセンター	大府市共和町7丁目83番地	平成30年8月1日	40	
	障害福祉サービス事業	短期入所事業	相生	知多郡東浦町大字緒川字東米田16	平成20年6月1日	空床	
障害福祉サービス事業	共同生活援助事業	愛光園地域居住サポートセンター	知多郡東浦町大字緒川字東米田33-3	平成18年10月1日	54		
障害福祉サービス事業	居宅介護事業	知多地域障害者生活支援センターらいふ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成13年4月1日			

障害者福祉	第一種	障害福祉サービス事業	共同生活援助事業	地域生活支援センターりんく	大府市江端町5丁目179	平成16年6月1日	
		障害福祉サービス事業	居宅介護事業	地域生活支援センターりんく	大府市江端町5丁目179	平成18年10月1日	30
		障害福祉サービス事業	共同生活援助事業	あったか生活支援センター	知多郡東浦町大字緒川字東米田26-4	平成27年7月1日	10
		福祉ホーム	福祉ホーム	びわの木	知多郡東浦町大字緒川字東米田33-3	平成11年4月1日	5
		移動支援	移動支援	知多地域障害者生活支援センターらいつ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成18年10月1日	
		移動支援	移動支援	地域生活支援センターりんく	大府市江端町5丁目179	平成18年10月1日	
		一般相談支援事業	一般相談支援事業	阿久比町障がい者相談支援センター	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成29年4月1日	
		特定相談支援事業	特定相談支援事業	阿久比町障がい者相談支援センター	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成29年4月2日	
		一般相談支援事業	一般相談支援事業	東浦町障がい者相談支援センター	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成29年4月3日	
		特定相談支援事業	特定相談支援事業	東浦町障がい者相談支援センター	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成29年4月4日	
		一般相談支援事業	一般相談支援事業	こだま	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	平成25年12月1日	
		特定相談支援事業	特定相談支援事業	こだま	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	平成25年12月1日	
		その他	第一種 第二種				

公益事業	種類(番号を記載)	事業名	施設名・事業所名	所在地	事業開始年月日	事業規模(定員)
	12	介護老人保健施設	相生	知多郡東浦町大字緒川字東米田16	平成8年10月30日	100
12	通所リハビリテーション	相生	知多郡東浦町大字緒川字東米田16	平成8年10月30日	30	
12	居宅介護支援事業	相生	知多郡東浦町大字緒川字東米田16	平成12年4月1日		
2	障害児・者在宅生活支援事業(レスパイト)	知多地域障害者生活支援センターらいつ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成13年4月1日		
1	障がい児等療育支援事業	知多地域障害者生活支援センターらいつ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成8年10月1日		
2	障害者就業・生活支援センター	知多地域障害者就業・生活支援センター ワーク	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成16年7月1日		
2	日中一時支援事業	まどか	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	平成18年10月1日	2	
2	日中一時支援事業	ひかりのさとファーム	知多郡東浦町大字緒川字下米田37-4	平成18年10月1日	5	

- 1 必要な者に対し、相談、情報提供・助言、行政や福祉・保健・医療サービス事業者等との連絡調整を行う等の事業
- 2 必要な者に対し、入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業
- 3 入浴等の支援が必要な者、独力では住居の確保が困難な者等に対し、住居を提供又は確保する事業
- 4 日常生活を営むのに支障がある状態の軽減又は悪化の防止に関する事業
- 5 入所施設からの退院・退所を支援する事業
- 6 子育て支援に関する事業
- 7 福祉用具その他の用具又は機器及び住環境に関する情報の収集・整理・提供に関する事業
- 8 ボランティアの育成に関する事業
- 9 社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業(社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士・保育士・コミュニケーション支援者等の養成事業等)
- 10 社会福祉に関する調査研究等
- 11 事業規模要件を満たさないために社会福祉事業に含まれない事業
- 12 介護保険法の居宅サービス事業、地域密着型サービス事業、介護予防サービス事業、地域密着型介護予防サービス事業、居宅介護支援事業、介護予防支援事業、介護老人保健施設、地域支援事業を市町村から受託する事業
- 13 有料老人ホーム
- 14 社会福祉協議会等において、社会福祉協議会活動等に参加する者の福利厚生を図ることを目的として、宿泊所、保養所、食堂等を経営する事業
- 15 公益的事業を行う団体に事務所等として無償又は実費に近い対価で使用させるために会館等を経営する事業
- 16 その他 ()

事業所長	施設名	氏名	就任年月日	法令等に定める資格の有無
	ひかりのさとのぞみの家	倉科 由加子	2016年4月1日	有
	まどか	三宅 徹	2018年4月1日	有
	相生・通所リハビリ	三島 隆寛	2020年3月1日	有
	障がい者活動センター愛光園	多田 真	2018年4月1日	有
	ひかりのさとファーム	皿井 常之	2012年4月1日	有
	愛光園地域居住サポートセンター	渡部 等	2014年4月1日	有
	阿久比町立もちの木園	堀田 学	2018年4月1日	有
	就職トレーニングセンター	辻 孝志	2018年4月1日	有
	知多地域障害者地域生活支援センターらいふ	三宅 和人	2016年4月1日	有
	こだま	三宅 和人	2016年4月1日	有
	地域生活支援センターりんく	松澤 賢治	2018年4月1日	有
	大府市発達支援センターおひさま	東 千恵子	2016年4月1日	有
	こぶし	湯浅 修治	2015年4月1日	有
	もくせいの家	湯浅 修治	2015年4月1日	有
相生ヘルパーステーション	湯浅 修治	2015年4月1日	有	
相生居宅介護支援事業所	湯浅 修治	2015年4月1日	有	

職員	常勤専従	常勤兼務		非常勤	
		換算数	換算数	換算数	換算数
	法人本部	9	0	0	5
施設	185	0	0	285	174.1

理事会	開催年月日	出席者数	監事出席の有無	決議事項
	令和1年6月13日	8	有	〔報告事項〕(1) 平成30年度監事監査報告について(2) 予備費の使用について 〔審議事項〕(3) 平成30年度事業報告について(4) 平成30年度決算報告について(5) 規程の制定・改正について(6) 2019年度第1次補正予算について(7) 理事・監事の候補者について(8) 評議員会の議案について〔報告事項〕(9) 理事長・業務執行理事の業務執行状況について
	令和1年6月28日	8	有	〔審議事項〕(1) 理事長の選任について(2) 業務執行理事の選任について(3) カーテンメンテナンス付リース契約の更新について
	令和1年7月16日	6	有	〔決議事項〕第1号議案 デイサービスセンターこぶしの空調設備更新について
	令和1年9月12日	8	有	〔決議事項〕第1号議案 老人保健施設相生の修繕工事について第2号議案 規程の改正について 〔報告事項〕・会計監査人と専門家の活用・確定拠出年金・理事長・業務執行理事報告
	令和1年12月12日	6	有	〔決議事項〕第1号議案 規程の制定について〔報告事項〕・2019年度事業計画中間報告・中期計画・運営協議会・専門家の活用・理事長・業務執行理事報告
	令和2年2月21日	8	有	第1号議案 老人保健施設相生の施設長の交代 第2号議案 社会福祉法人愛光園 就業規則の変更
	令和2年3月9日	8	有	〔決議事項〕第1号議案 中期計画について第2号議案 2019年度第2次補正予算について第3号議案 2020年度 事業計画について第4号議案 人事について第5号議案 2020年度 予算について第6号議案 理事候補者の選任について 第7号議案 第2回定時評議員会の招集の決定の件 〔報告事項〕・苦情可決第三者委員会について・理事長・業務執行理事の業務執行報告について・その他

2019年度事業報告

事業所名	ひかりのさとのおもいの家	責任者	倉科 由加子
<p>【実施事業】 施設入所支援事業 定員40名 生活介護事業 定員50名 短期入所事業 定員4名</p> <p>【重点目標】 重点目標 利用者個々のその人らしい生活の支援 個々の生きがいに寄り添った日中活動の充実 高齢化重度化への適切な対応 多様な人材を活かした職員が互いに高めあうチーム力の向上 技能実習生受け入れの仕組みの確立 人材育成のための研修体制と情報共有の仕組みの確立 災害・緊急時対応の整備 働き続けたいと思える労働環境の整備 勤務体制の再編と年休取得率の向上 ノーリフトポリシーの推進</p> <p>実施状況 個別のニーズを伺いフリープログラムや日中活動の中で全員の住人さんについて1回以上の外出の機会を持つことが出来ました。Facebookを通してコンサートや外出が企画出来、ポッチャのボランティア教室が定期的活動につながりました。企業ボランティアは、担当が連絡を密にとり、良い関係が築かれ活動が継続されました。介護士が行う喀痰吸引について、記録書式が整い運用を開始しています。 技能実習生を受け入れるための基本的な情報を職員に周知し、指導方法の統一など準備をして2月に技能実習生を2名受け入れました。計画に基づいて熱心の実習されています。法人内実務者研修に年間で3名送り出し介護福祉士の資格を取得されました。身障ブロック間の交換研修は互いの事業所を知りそれぞれに気づきがあり成果がありました。毎月職員会議内に研修を実施することが出来ました。フィードバック面談を含めて年3回の面談を行い、職員の目標取り組み状況を確認しながら職員の話聴く機会を持つことが出来ました。 夜勤者を4名から3名にする勤務形態を確定したことによって一般職員は勤務時間内に必要な事務時間を確保し超過勤務の削減につながるとともに、年休取得数がほぼ全職員について昨年度を上回ることが出来ました。</p> <p>残された課題とその対応 利用者急変時の職員の不安に対して5月に研修を行いました。次年度は職員が迷わず対応できるように具体的な動きをカード形式にして準備し、緊急時対応訓練に活用してスキルアップを目指します。個別のニーズについて、外出等の楽しみだけでなく、「どう生きたいか」に寄り添うため、次年度は個々の住人さんの「人生会議」を行います。 介助場面ごとの動画マニュアルの作成を計画してはいたができませんでした。災害への備えとして、発電機等の設備の検討が出来ないままであり、避難訓練についても、マニュアルをなぞるような訓練になってしまっていたため、来年度は現実に即した訓練を行えるようにします。 超過勤務について、体制を整備する途上で、主任以上の業務については削減できておらず、次年度適切な業務分担を行い引継ぎを含めて業務整理を行います。2019年度腰痛による欠勤者はいませんが、住人さんの特性上完全なノーリフトにはできていません。次年度リフトリーダーを選任し、男女会議でさらなるノーリフトに向けた検討を進めていきます。</p>			

2019年度事業報告

事業所名	障がい者活動センター 愛光園	責任者	松澤 賢治
【実施事業】 生活介護事業（定員36名、現員45名）			
【重点目標】			
<u>重点目標</u> 利用者一人ひとりが、その人らしい生き方ができるよう支援していきます。 自己実現に向けた個別支援プログラムの実施に努めます。 相互理解に向けた社会参画活動プログラムの実施に努めます。 自立生活に向けた支援プログラムの実施に努めます。 健康・保健に向けた支援プログラムの実施に努めます。 スタッフの支援力向上に努めます。 必要な資格取得に向けた研修・講習会への参加をしていきます。 定期的に勉強会・研修会を開催してきます。 法人内外事業所への研修を実施していきます。 支援技術の伝えと周知を確実なものにしていきます。 30周年記念行事を実施します。 記念誌の作成と記念式典を企画・実施します。			
<u>実施状況</u> 利用者一人一人の思いを個別に聴き取り、個別支援計画に反映していくことや個々の年齢・体力に応じた活動を見直し、実施していくことはできました。自立支援に向けた支援プログラムの実施で、個別支援会議を指定相談事業所と計画的に実施することができませんでした。 計画に則って各目標をほぼ実施することはできましたが、支援技術の伝えと周知の確実な実施という目標の中で、マニュアルの更新に着手することができませんでした。 計画通りに実施することができました。記念誌の内容については良い評価を頂きましたし、式典も規模はそれほど大きくはなかったですが、その分家庭的な雰囲気になり、それが良かったという意見を頂きました。			
<u>残された課題とその対応</u> 活動内容のすこやかという活動に関しては見直しを行い、新たな取り組みを作り上げることはできましたが、長年続いている既存のグループ活動の活動内容に変化が生まれていないので、より利用者一人ひとりの思いを確認した上で新たな展開をしていくよう努力していきます。 自立生活に向けた支援プログラムは、在宅利用者の加齢に伴い、家族も高齢になってきている為個別支援会議の重要性が増してきています。個別支援会議の計画を立案し、相談事業所と更なる連携を図りながら実施していきます。 支援者のキャリアアップとスキルアップの為に今後も継続的に資格取得に向けた取り組みや支援力向上に向けた研修等を実施していきます。また実施後の職員間の情報共有を確実に実施していきます。 記念誌で過去10年間の取り組みをまとめてきました。その振り返りから得たものを次に生かしていき、更なる活動や生活の充実を図り、利用者一人ひとりがその人らしい生活を送っていくことができるように努めていきます。			

2019年度事業報告

事業所名	地域生活支援センターりんく	責任者	小野 嘉久
【実施事業】 共同生活援助 (定員30名 現員23名) 居宅介護事業 (利用契約者 居宅介護40名・重度訪問介護7名)			
【重点目標】 サービス向上に努めます。 利用者一人ひとりの思いに寄り添い、その具現化に向けた取り組みをしていきます。 体験利用者の受け入れの継続と今後の方向性を立案していきます。 障がいの重度化・高齢化に伴うグループホームでの暮らしの検討をしていきます。 利用者から意見を聴き、分析した上でサービスの質の向上に繋がります。 地域の社会資源の一つとしての役割を果たします。 スタッフの支援力・チーム力向上に努めます。 定期的に勉強会や研修会を開催していきます。 愛光園・のぞみの家との交換研修を実施していきます。 スタッフ個々の目標を設定し、達成できるような研修を実施します。 在宅支援のノウハウを拡充していきます。 情報共有の仕組みを変更し、定期的に見直しを行います。 働き続けたいと思える職場づくりに努めます。 業務内容の把握と整理・見直しをし、適正な業務配分をしていきます。 有給休暇の計画的な取得を実施していきます。 地域や学生等への働きかけをしていき、人財確保をしていきます。 中期計画(2020年度～2022年度)を作成していきます。			
実施状況 利用者一人ひとりの楽しみを実現していく取り組みについては、ホーム会議で情報共有し、工夫をしながら少しずつ実施していくことができました。利用者から意見を聴くことに関しては、アンケートを取り意見を聴くことができました。障がいの重度化に伴う暮らしの対応については方向性を出すまでには至りませんでした。 今年度は外部研修に参加することができまし、障がいブロック交換研修も定期的実施することができました。在宅支援のできるスタッフの人数を増やしていくことも計画的に進めていくことができました。 業務の整理・見直しについては、コーディネート業務は進めていくことができていませんが、居宅請求業務は、業務分担と情報共有は進めていくことができました。中期計画作成については、会議を定期的持つことにより課題を明確にすることができ、次年度に繋げていけることができました。しかし、それを中期計画に落とし込んでいくことはできませんでした。			
残された課題とその対応 現在進めている体験宿泊の利用者の今後の方向性を明確に打ち出すことと、利用者の重度化・重症化に伴う課題を関係機関と情報共有しながら解決に向けて取り組んでいきます。 定期的な勉強会として、医療面は訪問看護ステーションと協力体制を取りながら実施していき、特に権利擁護については重点的に行っていきます。来年度の面談を3回/年実施していき、スタッフ個々のスキルアップに合わせた研修計画を立てていき、実施していきます。 特に勤務表の作成で業務の効率化を図っていくために、ソフトウェアの導入を検討し進めていきます。地域や学生等に働きかけをしていき、グループホームに対する理解を拡げていくと共に人財の確保に努めていきます。			

2019年度事業報告

事業所名	まどか	責任者	三宅 徹
<p>【実施事業】 施設入所支援(定員40名) 生活介護事業(定員40名) 短期入所事業(定員2名) 日中一時支援事業(定員2名)</p>			
<p>【重点目標】</p>			
<p>重点目標 サービス向上に努めます。 ご本人の意思を汲み取り、思いの実現に向けた支援に努める。 ご利用者の心身状態の変化に対応した支援体制を整える。 チーム力を育み、ご利用者ニーズの実現に向け人材育成に努めます。 身体機能の低下や医療と連携が必要なご利用者に対して支援力の向上に努める。 強度行動障害・自閉症スペクトラムご利用者に対して支援力の向上に努める。 権利擁護意識の向上に努める。 居住環境や労働環境改善に努める。 ご利用者の快適で安全な暮らしの環境を整える。 まどかの将来構想について検討する。 働きやすい職場環境の改善に取り組む。</p>			
<p>実施状況 ご利用者の思いや特性、身体状況に合わせた日中活動を実施していく為に活動の編成を見直しました。5, 6, 8月に検討会議の実施、11月にスーパーバイザーの助言を受け各活動単位で、個々に合わせた活動内容を少しずつ設定してきました。個別支援会議への本人参加は一部ご利用者の実施に留まりました。 目的に合わせた研修や学習会を計画しました。健康管理学習会は「腸の働きとケア」「緊急対応」「感染予防」のテーマで3回実施しました。実務者研修3名、行動援護従事者養成研修1名、その他法人内他事業所等の研修に参加しました。自閉症スペクトラム支援士の訪問を継続し助言を活動や生活場面に取り入れ実践に繋げています。第三者評価を受審し、評価結果をもとに改善計画を作成しました。権利擁護意識向上のために事業所内で「これって虐待」というテーマでアンケートと検討を実施しました。5, 11月はスーパーバイザー招いて困難事例の学習会を実施し、障がい特性の理解や権利擁護の視点で助言をいただき、支援に反映しました。 環境改善では、5S担当者中心に居室収納の整理、落書き消し、衛生管理チェック等生活環境の改善と、備品収納スペースの増設や発注や管理の見直しなど業務環境の見直しを行いました。 設備の老朽化に伴い床暖房、ろ過装置の修繕を行いました。防災対策では事業所内防災チームで、ソーラ発電、井水切り替え、蓄電池等のマニュアル整備を行いました。 将来構想の検討は、事業所内の現状と課題を検討するまでに留まりました。法人や他事業所との検討や他施設の情報収集なども不十分で、具体的な方向性を出すことができませんでした。</p>			
<p>残された課題とその対応 ご利用者の思いの実現のために本人と複数の支援者で思いを汲み取り、個別支援計画に反映して実現に向けて支援します。グループホームへ移行希望者に対して移行を実現していくために、相談事業所と地域居住サービスセンターと連携し、計画的に取り組めます。 支援に必要なスキル獲得のために強度行動障害支援者養成研修・喀痰吸引研修の受講を計画的に行います。虐待防止に対する意識を支援者間で統一して高めるために、学習機会と支援の振り返りを定期的に継続していきます。 有事に備えて非常災害対策計画・BCPの更新と周知を行い、実際の動きを確認します。 支援に必要な人員の配置を再検証し、働きやすい労働環境の改善を行います。 まどかの将来構想の検討を、まどかに関わる人の思いを具体化し、法人と連携して進めていきます。</p>			

2019年度事業報告

事業所名	ひかりのさとファーム	責任者	東 悟
<p>【実施事業】 就労継続支援B型（定員20名） 生活介護（定員20名） 日中一時支援</p>			
<p>【重点目標】</p>			
<p><u>重点目標</u></p> <p>生活介護の強化 生活介護の機能強化のため、環境を整えます。地域の福祉ニーズや利用者の状態像の変化に対応します。中期計画（2020年～2022年）を作成します。</p> <p>就労継続支援B型の機能整理 強みに特化できるよう整理・再構築をします。中期計画（同上）を作成します。</p> <p>働きやすい職場づくり 事業所内で部署間の相互理解を深め、応援できる体制をつくります。専門性を高めるため積極的に研修会等に参加し、支援力の向上に努めます。勉強会を通して人材育成、チーム支援を強化します。</p>			
<p><u>実施状況</u></p> <p>環境整備や状態像の変化への対応は、個別の利用者に合わせて随時行いましたが、現状の中での工夫にとどめ、新規導入は今年度見送り、中期計画にあがっている作業棟新設検討の中で重点的に行っていく予定です。活動内容はとしては、自立課題の種類を増やし充実を図りました。特別支援学校卒業生の受入体制については、学校との連絡調整会議に参加し、2022年までに卒業予定の東浦町在住の生徒の進路ニーズを把握しました。現段階では、生活介護ニーズが多い傾向にあり、2020年度卒業予定の生徒2名を生活介護での受け入れを予定しています。</p> <p>どの事業を続けていくか検討した結果、より高工賃を目指していくために、働き方ニーズによってグループを再編したうえで、施設外就労班を2021年度に新設する方向性となりました。それに伴い2020年度中にパン工房を閉鎖する予定です。レストラン・コーヒー・養鶏については、緩やかな働き方を希望する利用者の方として、生活介護事業の中で継続していく予定です</p> <p>部署間交換研修を行ったことで、今まで見えにくかった各部署の動きの共有ができ、風通しが良くなったことで部署間の連携が比較的スムーズに運ぶようになりました。また、正職が講師となる事業所内勉強会の中で、「パンの魅力について」「自然卵養鶏法について」等の各部署のこだわりを学ぶ場を設定したことで、ファームの強みを知る機会となりました。</p>			
<p><u>残された課題とその対応</u></p> <p>現状の中での工夫では難しいトイレの数、リラックスできるスペース、不要な刺激の除去など、新規に環境整備が必要な課題が残っています。それらの課題は、作業棟新設によって解決を図ります。</p> <p>パン工房の閉鎖による利用者の作業部署の再編と作業量の減少が課題となります。これには以前より課題に上がっていた健康増進・維持、余暇の活動の導入、新規作業の開拓を行っていきます。施設外就労先の確保も大きな課題となります。来年度後期には、施設外就労担当者を配置し地域の企業、法人内他事業所へアプローチし確保していく予定です。</p> <p>支援スキルの向上・チーム支援の強化のため、引き続き、強度行動障害支援者養成研修の受講、部署間交換研修や事業所内勉強会を実施します。</p>			

2019年度事業報告

事業所名	阿久比町立 もちの木園	責任者	堀田 学
【実施事業】 生活介護（定員 10 名） 就労継続支援 B 型（定員 10 名）			
【重点目標】			
重点目標 就労継続支援 B 型の機能を整え、利用者の工賃増に努めます。 就労継続 B 型と生活介護、2 つの事業の住み分けを図ります。 工賃規定の見直しを図ると同時に、生産活動に係る事業に携わる利用者への工賃を上げます。 近隣イベント等へ積極的に参加し、地域との繋がりや活性化に貢献します。 利用者一人ひとりが、「自分らしく」生活が営めるよう支援します。 発達障がいの利用者受入れに対応すべく、専門的スキルの向上を図ります。 利用者の障がいの特性や高齢化に伴う心身機能の低下等に対応した生活介護のプログラムの充実を図ると同時に、ハード面における環境整備に努めます。地域の方々の学びの場としてのニーズと事業のマッチングに努め、その中で地域との交流を深めます。 関係機関との連携を強化し、地域の中で安定した生活支援を図ります。 もちの木園利用者のグループホーム宿泊体験利用を 2 名以上増やします。 移動支援や通院等介助などの外部サービスを利用し、より充実した地域生活を模索します。 グループホーム体験事業（自主事業）の利用を促し、体験を積むと同時にアセスメントに努め、利用者それぞれの課題の整理に努めます。			
実施状況 新館（生活介護）作業室・自主作業室（就労継続支援 B 型）と両事業の住み分けを実施しました。既存の生産活動に参加できる利用者を増やすべく、更なる作業の細分化及び構造化を図り作業効率が向上した事で、モーター事業 776,281 円（前年比 125%）タオル事業 325,810 円（前年比 223%）リサイクル事業 156,909 円（前年比 212%）と大きく年間売り上げが向上しました。 新館の構造化を図り、個室スペースの確保など利用者の特性に合わせた環境を整えました。 「共同生活援助体験利用」について、女性 1 名が新たに利用され、2020 年 5 月に「共同生活援助（グループホーム）」に完全移行する予定です。また、男性 4 名が自主事業の「グループホーム体験利用」を隔月で 2 名ずつ継続利用されています。			
残された課題とその対応 年度中に工賃支払規定の見直しができませんでした。2020 年 4 月より生産活動に係る事業に携わる利用者へお支払いする工賃を 80 円から 100 円へ増額します。またモーター事業の月間売上が前年比 125%と目標の 150%を達成する事ができなかったため更なる生産性の向上を図ります。 地域交流及びボランティアの受け入れについて、強度行動障がいのある方を受け入れるようになり外部の方を安易に受入れる事が困難となりましたが、支援と環境を整えて部分開放を探ります。 「共同生活援助体験利用」について、2 名以上の目標を掲げていましたが、男性 2 名、女性 1 名が支給決定されていたものの体験利用には至りませんでした。宿泊体験の場作りと人員確保が急務です。			

2019年度事業報告

事業所名	愛光園地域居住サポートセンター	責任者	皿井 常之
<p>【実施事業】 愛光園地域居住サポートセンター：共同生活介護事業（定員54名）、福祉ホーム（5名）、あったか生活支援センター：共同生活介護事業（定員10名）</p> <p>【重点目標】 重点目標 地域生活支援ニーズを把握し、法人内各事業所・地域の関係機関と協議し、地域生活支援の機能を強化していきます。 高齢化・重度化に対応する支援体制の整備をはかります。 住環境の見直しを行い、安心して健康な暮らしができるように改善をはかります。必要であるなら住み替えを実施します。コア機能のあるグループホームの位置づけは限られた条件であっても試行します。 グループホームの体験利用ができるホームを選定しサービス提供していきます。そのことにより本人地域自立支援のプロセスを援助します。 働きやすい職場環境の改善に努め、地域生活支援の多様性の確保や質の向上に繋がります。 愛知県グループホーム世話人等確保支援事業等を活用して、人垣（職員、ボランティア、短時間就労等）の充実をはかり、人財の育成と活用をはかります。 労働時間の管理を一元的に実施できるツールを検討・試行し、年度内での実施を行います。それを活用することでライフ・ワーク・バランスを推進します。 24時間コール体制（携帯電話当番等）や生活支援員やヘルパーの巡回の仕組みを構築させ、チーム支援体制を効率的に機能させます。 支援スキルの向上を図る目的で地域生活支援ハンドブックの作成や職員研修等を充実させます。本人中心地域生活支援への仕組み作りをはかります。 パーソン・センタード・プランニングの実践を計画的に進めます。 グループでの余暇活動を企画から本人参加ができるように展開させます。</p> <p>実施状況 日中サービス支援型の制度利用を検討したが、イメージが合わず移行の検討を中止しました。東仙台ホームの開業準備が遅れましたが3月に開所、横根ホームを廃止し、障がい特性や高齢化等を考慮して15名の利用者の住み替えを実施しました。グループホームの体験利用は東仙台ホームの開所が遅れ、2ホームでの実施にとどまりました。 愛知県グループホーム世話人等確保事業では、グループホーム説明会を12月、1月、3月に開催し、4名が参加、2名が採用につながりました。グループラインの活用や夜間支援体制等でエリア連携を進めることができた。残業時間軽減や有給休暇取得は一部効果がみられたが職員によりバラつきがありました。ハンドブックは一部作成、外部研修への送り出しも計画的に実施しました。 研修を受けてアセスメントシートを見直し、下半期から実施しています。長年続いた生け花教室が無くなり、本人たちと内容を考えて、音楽活動を開始しています。</p> <p>残された課題とその対応 パブリックリビング機能を事務所1階の「そよ風」に持たせ、週末支援や余暇活動だけでなく、緊急時、災害時などにも活用できるように整備していきます。グループホーム体験利用ニーズに応えられるよう2部屋を確保します。 愛知県グループホーム世話人等確保事業は継続し、すそ野を広げて職員の確保に努めていきます。ハンドブックの一部を作成したが、業務マニュアルなども整備して運用します。研修へ計画的に送り出し、支援の質を向上していきます。 パーソン・センタード・プランニングの実践を深めていけるよう取り組んでいきます。音楽活動は、人数が多くなりすぎているため、活動内容や人数など安定して続けられるよう見直していきます。</p>			

2019年度事業報告

事業所名	・知多地域障害者生活支援センターらいふ ・こだま	責任者	増田 幸史
<p>【実施事業】</p> <p>レスパイトサービス事業 居宅介護・行動援護・重度訪問介護・移動支援事業 日中一時支援事業 放課後等デイサービス事業 障害児等療育支援事業 障害者就業・生活支援センター事業（知多地域障害者就業・生活支援センターワーク） 障がい者相談支援センター（東浦町および阿久比町の基幹・委託相談支援事業、指定特定相談支援事業、指定障害児相談支援事業、指定一般相談支援事業） こだま（指定特定相談支援事業、指定障害児相談支援事業、指定一般相談支援事業）</p> <p>【重点目標】</p> <p><u>重点目標</u> 誰もが、お互いに助け合い認め合える共生社会を目指します。 人材の確保・育成を進めます。 新しい時代にあった法人経営を展開していきます。</p> <p><u>実施状況</u> ご本人の意思を反映させたサービス等利用計画を作成しました（らいふ・こだま）。公的な相談支援事業を受託、療育等支援事業では講演会や通園施設等での事例検討等を実施、障害者就業・生活支援センターでは、障がい者の就業や職場定着を目的とした相談支援等を行いました。また東浦町および阿久比町の基幹・委託相談支援事業では専門的な相談支援の実施、障がい者自立支援協議会の事務局、精神科病院からの地域移行支援等を実施しました。生活支援では7月に日中一時支援事業と放課後等デイサービス事業を統合し、よりニーズに沿ったサービスの充実化を図りました。 大学のサービスラーニングを受け入れ、また法人の職員採用説明会に職員を派遣し、事業の説明や参加者フォロー、インターンを募りました。また法人の介護初任者研修助成制度を活用して、学生ヘルパーを確保しました。 公益性の高い社会福祉法人として職員が働きやすい体制を整備し、内部統制を強化しました。東浦町および阿久比町の障がい者自立支援協議会の運営に事務局として参加し、地域貢献や情報発信、地域連携をすすめました。</p> <p><u>残された課題とその対応</u> 障害者支援施設まどかと連携し、施設からの地域移行を支援します。 レスパイトサービスにより、公的なサービスでは賅えないニーズを支援します。 放課後等デイサービスでは小学生から高校生までを対象として、利用者の発達段階に合わせた支援ならびに、一人ひとりのニーズに応じた支援を実施します。 引き続き福祉を目指す学生等の窓口としての機能を果たします。 老朽化した建物の建て替えに向けた準備を進めます。 公的事業を受託するにふさわしい事業所として在り続けます。 地域の療育体制の充実を目指します。</p>			

2019年度事業報告

事業所名	大府市発達支援センターおひさま	責任者	東 千恵子
【実施事業】			
	児童発達支援	早期療育事業	放課後等デイサービス
	保育所等訪問支援	障害児相談支援	おもちゃ図書館事業
【重点目標】			
<u>重点目標</u>			
<p>昨年度行った児童発達支援ガイドラインの抄読会から見てきた課題に取り組みます 身体拘束について学びます 個別支援計画の項目の見直しをします 放課後等デイサービス（以下放デイ）について感覚統合の視点を入れたあそびの充実を図ります 各関係機関との連携を大切にします 他事業所や学校、基幹相談センターと連携します 大府市内の放デイ事業所と連携します 自己研磨と共に、高め合う努力も大切です。園内研修をより充実させます。 園内研修を充実します 子どもの成長源である“あそび”の環境設定や関わりを見直します 2020年の指定管理更新に向けた事業の見直しと市との交渉をします</p>			
<u>実施状況</u>			
<p>身体拘束についての研修会をNPO法人ゆう理事長豊田氏をお招きし、身体拘束を中心としながら、施設虐待など権利擁護の話をお聞きした。また、午後グループワークをすることで、おひさま内で何が身体拘束に当たるか考えることができました。また、個別支援計画の項目として入れていなかった家族支援について職員会議で話し合い、家族支援の目標を立てるシミュレーションを行いました。放デイの感覚統合の視点を取り入れたあそびについては、担当者が講師役となり感覚統合の勉強会を行い、その知識をもとに活動の実施と振り返りを行いました。身体の動かすだけでなく子ども同士のやりとりにも発展する良い活動となりました。</p> <p>放デイ利用児が所属する小学校に訪問し、放デイ利用児の担任と情報交換を行い、個別支援計画の目標や支援内容に反映することができました。また、個別支援計画を保護者の了承の上、前期後期共にサービス等利用計画を作成している基幹相談支援センターにお渡ししました。放デイの連絡会では定例会を2回と、日本福祉大学教授木全氏による“性について”の勉強会を1回行いました。20名強の参加となり学び合いができました。</p> <p>担当がテーマを選定し、それについての研修に参加したり、文献で学んだりして内容をまとめ、講師役となり研修会を行いました。また、“あそび”の見直しについては、6月に“あそび”の研修を行い、児童発達支援のクラスでは9～11月の活動内容に反映。その結果を12月の職員会議で、各クラスの“ベストオブあそび”を発表し共有しました。そうすることで各職員が“あそび”に対する考察を深めつつ、バリエーションも増やすことができました。</p> <p>指定管理更新に向け、事業の見直しに関する提案をし、プロポーザルに向けての準備を十分に行うことで、2020年から10年間の指定管理を受託することができました。</p>			
<u>残された課題とその対応</u>			
<p>身体拘束についての考え方が継続的に共有されるしくみやマニュアル作りを来年度行います。また、個別支援計画で地域連携の項目についてはまだ議論されていないため来年度行います。放デイの新規事業所が市内に立ち上がるため、連絡会出席を勧奨し、横の繋がりを作ります。職員の入替わりがあり、療育経験の浅い職員が増えているため、もう一度支援するための基本事項を共有する必要があります。来年度研修等で実施していきます。</p>			

2019年度事業報告

事業所名	就職トレーニングセンター	責任者	辻 孝志
<p>【実施事業】 就労移行支援事業（定員20名） 就労定着支援事業（定員40名）</p> <p>【重点目標】 重点目標 利用者満足度の向上 就労移行支援 年間就職者数 10名を達成します。 就労定着支援 就労定着率 90%以上を目指します。 健全な事業運営 日々の利用率 80%以上を目指します。 就労支援事業体制の充実 就労支援スキルの向上を図ります。（人財育成とプログラムの充実） 医療機関や地域関係機関と連携した就労支援を行います。 就労前の児童を対象とした事業所等と連携し将来の就労生活を見据えた支援体制を構築します。 「共に生きる」実践と社会貢献 誰もが働きやすい職場とします。笑顔であいさつ運動、6S運動（整理・整頓・清掃・清潔・躰・習慣）、カイゼン活動を継続し、コミュニケーションが活発にとれる職場とします。 法人内事業所の人財不足へのバックアップを行います。 情報発信/地域貢献活動の推進 SNSを活用した法人職員の人財確保や、事業の啓発活動、新規ご利用者の確保に繋がる情報発信を積極的に行います。就労にかかわる支援機関、企業への貢献活動を進めます。 地域の自立支援協議会や障がい者雇用連絡協議会へ参加します。</p> <p>実施状況 利用者満足度の向上 年間就職者数10名【目標達成率100%（トライアル雇用終了者含む）】と目標値を達成しました。過去3年間の就労定着支援利用契約者32/35名（91.4%）の方が雇用継続されています。定着支援事業以外の方への支援も継続して行っています。 健全な事業運営 年間利用率4374/5120名（85.4%）と目標値を達成しました。 就労支援体制の充実 相談支援初任者研修・サビ管研修等、中期的な人財育成の視点で取り組むことができました。サポート会議や通院同行など、必要に応じて各関係機関の方との連携を図りました。 らいふ放課後等デイを小中クラス、高等部クラスに分け、発達段階に合わせたプログラムとなるよう再編を行いました。 「共に生きる」実践と社会貢献活動 働きやすい職場環境の整備は、各職員意識して取り組むことができました。大府市自立支援協議会では大府市在勤・在住の方向け当事者活動の組織化を図り「フリーライフ」を立ち上げることができました。</p> <p>残された課題とその対応 安定した事業運営を行うため、毎月1名以上のマッチングのとれた就職送り出しと、丁寧かつ迅速な定着支援を行います。ご利用者獲得のためにSNSを活用した事業周知や、関係機関への挨拶回りの取り組み強化を行います。 就労にかかわる支援機関や学校等の教育機関、企業への貢献活動を進めるため、事業説明会等の要望があれば丁寧に対応を行います。</p>			

2019年度事業報告

事業所名	介護老人保健施設 相生	責任者	青山 誠
<p>【実施事業】 介護老人保健施設 定員100名(短期入所療養介護と障害福祉サービス事業の短期入所を含む)</p> <p>【重点目標】 重点目標 認め合い許し合う差別のない社会を目指します。 人財の確保・育成を進めます。 新しい時代にあった事業運営を展開します。</p> <p>実施状況 在宅生活支援の充実を目的として、在宅サービスとの連携を強化するための総合相談会議の実施や、生活リハビリの充実、入退所前後訪問の実施などに取り組みました。 一方で利用者やご家族の意向に沿ったターミナルケアの充実にも力を注いできました。 三大介助の動画マニュアルの作成まで至りませんでした。感染マニュアルの動画は作成できました。引き続きケアに関する動画マニュアルの作成を進めていきます。業務改善としてコンサルタントのアドバイスを受けて、記録や入退所時の業務の効率化を図ることができました。実務者研修受講を促し介護福祉士資格取得者の増員につながり、充実を図ることができました。 ICT補助事業を活用し、ケア記録システムの更新とケアマネジメントシステム(R4システム)の導入により、利用計画・利用記録・請求業務を一気通貫で行うことができるようにしました。 ベトナムEPA候補生への法人説明会に参加し、2名候補生と契約に至り2020年度中に来日される予定です。 同規模の3つの社会福祉法人が連携して国際セミナーを開催し、ベトナムのフエ大学との交流を深め、学生への福祉教育プログラムの開発・実施に向けた検討を開始しました。 職員体制がきびしく下半期において利用調整を行ったため、年間の平均稼働率92.83%となり目標の98%を大きく下回る結果となりました。 わくわく夢プランの実現に向けて、居酒屋み~こを年3回開催することができ、また中庭の花壇の整備や畑の充実を図り環境を生かした取り組みを行いました。 地域貢献活動として職員派遣による地域サロンへの出前講座を年5回実施し、目標を上回ることができました。 第3期大規模修繕として、空調冷温水配管の結露防止のための保温材の更新・シーリングファンの新設・建具の更新などを実施しました。</p> <p>残された課題とその対応 在宅復帰強化型の算定要件を満たしてはいましたが、職員体制が不安定であったため加算の申請を見合わせる結果となりました。2020年度早々の取得を目指します。 また人財確保の見通しが持たため、在宅支援の強化と早期の稼働率回復に努めます。 人財の確保に苦戦し業務維持が圧倒的状況であり、認知症介護実践者研修参加やキャリア段位制度の導入などを進めることができませんでした。2020年度に向けて体制の見通しが持たため、2020年度の目標として再チャレンジします。 持ち上げない介護を目指し、介護リフターの導入を計画化しましたが実現できませんでした。介護リフターの機種選定を終えており導入を早期に進めていきます。 会計監査人の導入に向けて適正な事業所運営を行うための事務資料の整理を試みましたが、制度施行の延期もあり予定通りに進めることができませんでした。公認会計士のアドバイスを受けて本部主導の下、適正化を図っていきます。</p>			

2019 年度事業報告

事業所名	デイサービスセンターこぶし	責任者	湯浅 修治
<p>【実施事業】 通所介護事業（定員30名） 介護予防・日常生活支援総合事業</p>			
<p>【重点目標】 重点目標 誰もがお互いに助け合い認め合える共生社会を目指します 認知症支援、在宅復帰、通り八卒業後の施設として機能訓練が継続できる 法人内各事業所と連携し、地域での生活を応援 人財の確保・育成を進めます サービスの標準化、管理職候補の育成、権限移譲、計画的な有給取得 新しい時代にあった事業経営を展開していきます 経営の安定を図る、地域貢献、情報発信、地域連携を進める、中長期計画の作成</p>			
<p>実施状況 認知症支援として2019年10月より「おとなの学校メソッド」を導入し、こぶし内での集団プログラムとして実施しました。テキストを購入された方を対象にMMSEを定期的の実施し、認知機能の推移を数値でみるができるようにしました。現在テキスト購入者は登録人数の約6割です。老健相生からの在宅復帰、通り八卒業後の移行先としての役割においては相生からは6名、通り八からの卒業は4名でした。 標準化についてはマニュアル作成と、業務見直しを繰り返し行いました。職員育成については現場に指導担当のリーダー職員を作り、常時のフォロー含め現場業務をまとめることができるようになりました。有給取得は計画的に進めることができました。 経営の安定について、十分な事業収入をあげることができず、年間の利用率は81.9%で目標の90%には至りませんでした。新規のご利用者も6.7月、12～2月は0名で利用相談や体験利用からつなげていくことができませんでした。</p>			
<p>残された課題とその対応 集団プログラムのこぶしの特徴として確立はできてきましたが個別の対応が不十分です。特に認知症が進行しつつある方へのアプローチについて、職員の認知症支援の技術向上が必須になります。また機能訓練については希望者が少なく、宣伝面での課題もありますが、効果を見える化するなどして相生からの移行先としての選択肢になるだけの支援力強化が必要です。また機能訓練指導員の安定した配置ができることでより質の高い機能訓練実施も可能となるため2020年度以降も検討が必要です。 非常勤職員の業務内容について個人差ができるなど計画通りに拡大できないなど、時間の効果的な使い方が課題になっています。また介護福祉士など資格取得を促し、専門職としての技術向上ができればやの課題解決にもつながると期待できます。 利用率の低迷について、介護職員不足から相談業務に専念できず、営業活動の不足を招き業績の低迷を招いたと反省しています。特に重度者への対応力については送迎や入浴の課題があり、スムーズな利用につなげることができませんでした。今後は業績の安定を急ぎます。またご利用者の立場にたち、複数の選択肢を提案できるようにします。安定経営が質の良い介護と働きやすさにつながることを自覚し、日々の利用人数と事業収益を確認し、常に改善を促せる仕組みを作り実践することで解決していきます。</p>			

2019年度事業報告

事業所名	相生通所リハビリテーション	責任者	湯浅 修治
<p>【実施事業】 通所リハビリテーション（定員30名、下記と合わせて） 介護予防通所リハビリテーション（定員30名、上記と合わせて）</p> <p>【重点目標】 重点目標 誰もが、お互いに助け合い認め合える共生社会を目指します。 その人らしい生き方支援、地域の福祉ニーズへの応答、地域生活の応援 人財の確保・育成を進めます。 人財の確保・育成、明るく働き甲斐があり、働き続けられる職場づくり、多様な人財の活用 新しい時代に合った事業経営を展開していきます。 経営安定化、夢実現への行動、内部統制強化、地域貢献・情報発信・地域連携、中期計画作成</p> <p>実施状況 4/1よりサービス提供環境の変更を実施し、リハビリにより意識・意欲をもって取り組めること や自己選択・自己決定を促しました。老健在宅復帰後のサービス利用は3件、通り八を卒業し こぶしへの利用移行は4件できました。より自立支援を促す目的でアセスメントは評価方法を強 化しケアマネジャーとの連携も強化できました。 正規雇用職員が少なく特定の職員へ業務集中することが多い部署ですが、非常勤職員へ業務を 配分し相応の給与とするなど改善を促しました。結果として計画的に介護以外の間接的業務を勤 務時間内でできるよう改善しました。 Facebookによる事業所紹介を不定期に実施しています。補助金を活用し、老健と連携したケ ア記録システムR4導入を決定しアセスメント力の強化を図りました。</p> <p>残された課題とその対応 リハビリサービスを受けての「維持改善事項」を可視化する仕組みを用意できていなかった ことが利用者満足を下げたと考えています。Barthel IndexやSIOS（社会的自立支援アウトカ ム尺度）を導入し、リハビリの効果が見える形でお示しできるよう整える必要があります。通 所リハビリの付加価値を、ご利用者・ケアマネジャーにしっかりお示しできていないことが利 用率低迷につながっているため急ぎ改善しなければなりません。資料など可視化できる宣伝材 料を作成し、営業宣伝活動に役立てることで、改善を図ります。 リハビリ提供のノウハウは整いつつありますが、ご利用者ニーズと事業所の思いとのミスマッ チがあります。多くの視点でのサービスの再構築が必要です。介護技術やサービス内容という 本質的サービスで自立支援を促すだけでなく、接遇・言葉遣いなどを強化することで、より雰 囲気の良い事業所に改善しなければなりません。 入院など続いたこともあります。利用率が下がり厳しい経営状況になりました。相談技術に ついてもさらに高いレベルに上げる必要があります。機会損失を防ぐ意識を常に持ちたいとこ ろです。また安定した利用を促すには安定した介護看護体制が必要で、これら人財の不足も課 題として残っています。十分なアセスメントを行い、ニーズに寄り添い、ご利用者の立場に立 った自立支援を質量とも安定して実施していきます。通所全体の効率的業務分担を継続的に改 善しながら、相談員業務に専念し経営面にも効果が出せるよう改善します。</p>			

2019年度事業報告

事業所名	グループホームもくせいの家	責任者	湯浅 修治
<p>【実施事業】 認知症対応型共同生活介護事業（定員18名）</p> <p>【重点目標】 重点目標 認知症の方々が自己選択自己決定できる生活を支援します 人財の確保育成を実施します 経営の安定を図ります</p> <p>実施状況 認知症進行予防の目的で、従来のくもん式学習療法だけでなくリハビリ職による個別リハビリ指導を受け、その実践に努めました。また、活動参加を促す目的で日常生活の中に役割を設定したり、地域向けの駄菓子屋の運営などできました。自由に活動できるように環境整備し、門扉の開放にもチャレンジしました。 認知症支援と自立支援を理解した職員の確保育成を実践し、新規で職員を採用することができました。また毎月認知症支援の勉強会を実施し、理解を深めました。年度末には認知症サポーター養成講座を行いました。 18人定員を満たせるよう、地域への営業宣伝活動を行いました。常時利用待機者をリスト化しました。まずは経費削減できる点を洗い出し、日常的に節電やペーパーレス化などを進めました。</p> <p>残された課題とその対応 職員の不足があったとはいえ、多彩なプログラムを用意しながら、実践できませんでした。また、全体に活動参加の量が減りました。日常生活のあらゆる場面で自立支援を促す機能訓練を意識し、活動量を増加させていきます。また、支援内容の成果を可視化することで本人や家族が安心感を得られるような配慮も必要です。次年度でそれらの改善を実施します。門扉の完全開放など課題は山積です。一つ一つ解決を図る2020年度になります。 採用活動は積極的に実施しましたが、年度末の結果としては前年度の体制と同じ迄にしか改善できませんでした。認知症を理解し介護できる人財は多くありませんが、その人財を育成するノウハウがあれば実現できます。学び、伝える内容をフォーマット化し、OJTで活かす取り組みが必要です。電子化されたマニュアルも含め、次年度で整え人財を確保します。 人財が不足したことで、空室を埋めることができず、大幅なマイナス計上となりました。早期に満員とし、経費を見直し、黒字経営をフォーマット化します。安定経営が職員の働きやすさにつながり、質の向上につながることは皆共有しています。早期に職員を確保し満員にし、経営安定させます。ご利用者職員双方の安心を目的に財務を改善致します。</p>			

2019年度事業報告

事業所名	相生指定居宅介護支援事業所	責任者	湯浅 修治
【実施事業】 居宅介護支援事業 介護予防サービス計画書作成の受託（各市町包括支援センター） 介護認定調査員業務の受託（知多北部広域連合）			
【重点目標】			
重点目標 その人らしい生き方支援 地域ニーズへの対応 人財の確保育成 業務の標準化 経営の安定 地域貢献、地域連携の強化			
実施状況 生活したい場所や自宅に帰られるよう十分なアセスメントの上で多職種で話し合い、在宅復帰実現を家族と一緒に考え実現できるマネジメントができました。 ケアマネジメントの魅力を伝え人財育成を図る目標を立て相談員や資格所持者には伝えることができました。また定型業務について、標準化を進めました。 設定した担当件数を確認しながら要支援件数と要介護件数のバランスとりつつ質の担保を実践し、特定事業所加算が算定できるようにしました。また常勤の介護支援専門員を継続配置することで安定した事業運営ができました。			
残された課題とその対応 老健からの在宅復帰支援を行うにあたり、老健の仕組みの理解が不足だったので、学び直していきます。また、地域生活支援においても、多種にわたるサービスから選べるよう、地域内事業所との連携を円滑にし、柔軟なマネジメントができる基盤の強化に努めます。 今後の人財の育成を意識し、積極的に魅力を伝える機会を設けていきます。また、質の高いマネジメントを維持するために業務の標準化が必須であり、フォーマット作成を進めます。 人財育成確保が今後の安定経営に繋がり、業務改善や地域貢献のベースになります。ケアマネジャー養成育成の仕組みが不十分な点を改善し、今後の育成につなげていきます。また、良質なケアマネジメントを行ったうえでの安定経営を実施しなければなりません。地域から期待されている「介護保険のプロ」としてできることを実践し、貢献することも課題です。地域全体の安心を地域の皆様の立場に立って考え、よろず相談会など実施することで貢献してまいります。			

2019年度事業報告

事業所名	相生ヘルパーステーション	責任者	湯浅 修治
<p>【実施事業】 訪問介護 介護予防訪問介護相当サービス 有償サービス（たすけあいサービス）</p>			
<p>【重点目標】</p>			
<p><u>重点目標</u> 認め合い許し合う差別のない社会をめざします。その人らしい生き方を支援します。 地域の福祉ニーズに応えます。地域での生活を応援します。 人財の確保・育成を進めます。明るく働きがいがあり、働き続けられる職場づくりに努めます。 多様な人財の活用を図ります。 新しい時代にあった事業運営を展開していきます。公益性の高い社会福祉法人としての内部統制の強化に努めます。地域貢献・情報発信・地域連携を進めます。中期計画を作成します。</p>			
<p><u>実施状況</u> 在宅復帰支援強化チームの会議に出席することで連携強化できました。ご利用者やご家族の意向に沿った訪問介護計画書を作成し、高齢障害問わず、自立支援を実施しました。 毎月の勉強会を実施し、職員の知識技術向上をはかることが出来ました。請求業務など重要な業務を複数名のサービス提供責任者でおこなえるように業務改善を実施しました。有給休暇取得について年間通して計画的に取得でき、働きやすさの改善につながりました。通所の入浴応援、障がい福祉サービスへの人財派遣など、人財を活かす取り組みは継続して行うことが出来ました。 有償サービスの実施については、宣伝の不足もあり、新規の方1名の依頼にとどまりました。6月には社会福祉協議会の依頼を受け、福祉実践教室の講師を派遣できました。</p>			
<p><u>残された課題とその対応</u> 生活リハビリを意識したホームヘルプサービスの提供は出来ませんでした。リハビリスタッフやケアマネージャーと連携をはかり、実施に向けて検討していきます。老人保健施設との連携を強化し在宅復帰支援に繋げてきます。 法人内事業に人財派遣できているものの、人財が十分でなく、新規の訪問介護や障がい福祉サービスや有償サービスが受け難い状況です。間接的業務を効率的に実施することで訪問可能な時間を生み出したり、訪問介護員の新規採用ができるかが課題です。 業務効率化を目指しタブレット1台を導入しましたが、成果を残せませんでした。より現実的に使用方法を改善し業務効率化につなげたいところです。障がい福祉サービス事業申請を計画していましたが実施できませんでした。有償サービスの実施は実質お一人の方のみでした。ご利用者、ご家族、ケアマネージャーに十分に伝わるパンフレットを作成周知し、必要な方へサービス提供できるように改善致します。</p>			

2019年度事業報告

事業所名	企画総務部	責任者	桑山利和
<p>【実施事業】</p> <p>法人本部の事務局として、事務の統括。制度動向や地域情勢の情報収集と情報発信。</p> <p>【重点目標】</p> <p><u>重点目標</u></p> <p>誰もが、お互いに助け合い認めあえる共生社会を目指します。</p> <p>地域の福祉ニーズをとらえ、対応をすすめます。</p> <p>柔軟で効率的なサービス提供体制の構築を促進します。</p> <p>災害発生時等の非常事態にも、サービス提供が継続できる体制を整えます。</p> <p>人財の確保・育成を進めます。</p> <p>人財の確保・育成を進めます。</p> <p>明るく働きがいがあり、働き続けられる職場づくりに努めます。</p> <p>多様な人材の活用を図ります。</p> <p>新しい時代にあった法人経営を展開していきます</p> <p>公益性の高い社会福祉法人として内部統制の強化に努めます。</p> <p>地域貢献・情報発信・地域連携をすすめます。</p> <p>中期計画を作成します(2020年～2022年)。</p> <p><u>実施状況</u></p> <p>東浦町等の主催する各種会議に参加・協力し、ニーズ把握に努めました。サービス提供の効率化は、船井総研にも関わっていただきながら検討し、いくつか実現しました。災害時の事業継続計画や一斉メールシステムは、具体化できていません。</p> <p>新卒採用は12名。中途採用は10名(年度途中を含む)。退職者は正職15名でした。採用試験や説明会の方法を大きく変更し、採用に結びつけることができました。人材紹介会社経由の職員が、短期間で退職することが多かったです。人事システムの検討も、十六総合研究所の協力を得て着手しました。</p> <p>宮嶋公認会計士事務所の協力を得て、内部統制の強化に着手しました。情報発信もフェイスブック等で積極的に発信しましたが、事業所間の格差が大きいです。実務者研修や認知症サポーター養成研修は、外部にも参加の窓口を空けていますが、減少傾向です。中期計画を作成しました。大府福祉会・ゆたか福祉会・名古屋ライトハウス・あいちグループホーム学会等との共同の勉強会などを行い、人財育成や連携強化につながりました。</p> <p><u>残された課題とその対応</u></p> <p>事業継続計画は、委員会レベルでの検討は難しいので、運営会議や部長会などで進めていきます。新型コロナウイルスの流行で、感染症対策も必要になり、急きょ作成したものを基にブラッシュアップしていきます。</p> <p>来年4月に向けての採用活動は、新型コロナウイルスの影響で見通しがきかない中での実施となりましたが、4月時点では比較的順調に進んでいます。再来年度採用へも大きな影響があるので、安定して採用できるよう試行錯誤していきます。紹介業者経由の採用は、短期間で退職する人が多く、紹介業者を頼らない採用に力を注ぐとともに、働き続けられる職場を作っていきます。</p> <p>公認会計士事務所から多くの課題を示されています。できることから対応していきます。SNSやICT等の活用は、コロナウイルスの感染拡大で、重要性が増しています。一層実務者研修は、法人内外で受講候補者が少なくなっていますので、回数を減らします。</p>			

2019年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部できた： 未着手・全くできていない：×
ひかりのさとのぞみの家	サービス向上	地域社会とのつながりを意識した日中活動を展開	地域社会とのつながりを意識した日中活動の展開	○	個別のニーズを伺い、フリープログラムや日中活動の中で、全員の住人さんについて1回以上の外出の機会を持つことが出来た。
			ボランティアの活用による企画の実施	○	学生ボランティアは1名の登録があったが活動には至らなかった。Facebookを通して、イベントの企画や外出につながった。ボランティアによるポッチャ教室が新規に定期化できた。企業ボランティアは運動会は雨天中止となったが、夏祭り・バザー・車いす清掃で活躍してくれた。
			高齢化重度化への適切な対応		喀痰吸引の記録書式が整い、研修を受けた介護職員による喀痰吸引等を提供している。それに伴い、全住人さんの同意書等を整えた。感染症発症時には感染症対策チームで適時検討を行っている。急変を想定した緊急時対応訓練は研修を行ったのみでアクションカードの作成・緊急時対応訓練が出来ていない。
	人材育成	多様な人材の活用と職員が互いに高めあうチーム力の向上	技能実習生の受け入れの仕組みの確立	○	2月より、技能実習生を2名受入れるにあたり、受け入れ研修の仕組みを準備し、現在順調に実習を進めている。動画マニュアルは作成できなかった。
			個々の職員のなりたい姿の把握と応援	○	法人内実務者研修には3名送り出し、介護福祉士資格を取得。ブロック内の交換研修も成果があった。今年度職員会議内に研修機会を設定できた。フィードバック面談を含め年3回の面談を行うとともに、面談時の目標について毎月1次考課者が確認する機会を持った。情報共有の仕組みとしてヒヤリハット・支援の変更等を全職員がチェックする仕組みと会議に出られなくても意見を出せるよう意見交換の場をパソコン上に設置した。
			災害への備え	×	避難訓練を行ったが、より実態に即した訓練内容にしていく必要がある。非常時の発電機等については検討に至っていない。
	職場環境改善	職員が働き続けたいと思えるための職場環境の整備	年休取得率100%と超過勤務の削減	○	夜勤者を4人から3人にする勤務形態が確定した。それによって、勤務時間内に事務時間を設定し、超過勤務時間の削減につながり、年次有給休暇の取得数についてほぼ全員が80%を超える取得率まで伸ばすことが出来た。ただし、主任以上の業務量が整理できず、男性については3交代勤務に入らなければならない体制上、超過勤務の削減には至っていない。
			ノーリフトポリシーの推進		男性トイレ内リフターについてはデモ機の借用は行ったが効果確認が充分でなく導入には至っていない。業務に起因する腰痛による欠勤者はおらず、ノーリフトの意識は浸透しつつある。

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部できた： 未着手・全くできていない： x
障がい者活動センター 愛光園	利用者一人ひとりのその人らしい生き方の支援	自己実現に向けた個別支援プログラムの実施	利用者一人ひとりの年齢・体力に応じた活動内容の見直し		特にすこやかな活動の見直しを行ってきて、活動内容は定着した。2020年度に向けての活動の見直しも1月から利用者の意思を確認しながら取り組み、活動の新しい枠組みを作ることができた。
			個別支援計画等における本人の思いの更なる明確化と実現		個別支援計画の書式を新たに変更して取り組んできた。目標をより具体的に記載することにより、利用者へのアプローチが明確になった。
			一人ひとりに適したツール(動画・画像・実物等)の工夫と意思の複数確認及び全体での共有		全体で共有しながら取り組んできて、意思確認に必要なピクトグラム等を作成してきたが、実施時期が遅れてしまい、一部の利用者の方に留まってしまった。
		相互理解に向けた社会参画活動プログラムの実施	地域交流・地域活動の発展		各活動で予定されていた地域交流活動をほぼ実施することはできた。また陶芸のグループでは、陶芸関係者の繋がりでの新たな活動の展開を進めることができた。
			地域に向けた情報発信の場の拡充		作品展示会のメディアを使っでの発信により、来場者が増加したり、陶芸グループの新たな活動の展開により、情報発信の場を広げることができた。
		自立支援に向けた支援プログラムの実施	指定相談事業所と協同した個別支援会議の実施		個別支援会議の計画を立案し実施することはできず、必要に応じて会議を開催するに留まった。
			事業所として緊急時における支援体制の在り方の検討と実施		計画通りに進めていくことができず、年度の終わり2・3月での議論に留まり、非常災害対策計画の見直し・作成までには至らなかった。
		健康・保健に向けて支援プログラムの実施	利用者一人ひとりの健康面・体力面に配慮した過ごし方の検討と実施		日々の利用者の体調等の状態を関係者を含めて共有することにより、日々の過ごし方の判断と提供をしていくことができた。
			必要に応じた医療機関との情報共有と顔の見える関係性の構築		利用者の定期受診の内容を把握し、必要に応じて受診に同行し、顔の見える関係づくりに努めてきた。すべての利用者の受診に同行はできていない。
	支援力の向上	必要な資格取得に向けた研修・講習会への参加	介護福祉士実務者研修 2名/年 喀痰吸引等講習会 2名/年		予定通り と を実施することができた。
		定期的に勉強会・研修会の実施	医療・健康・制度に関する勉強会 ケース会議		については計画通りに実施することができた。については予定していた月(10月)よりは遅れてしまったが、2月に実施することができた。
		法人内外事業所への研修の実施	三施設合同研修会(外部へも発信する) 法人内身障ブロックにおける交換研修		三施設以外にも案内をし、外部の参加者を募ることができた。この取り組みは引き続き実施していく予定。交換研修については、3施設が協力し合いながら実施することができた。
		支援技術の伝えと周知の確実な実施	新人職員へのOJTを3か月間実施 マニュアルの更新とOJTを毎月並行して実施		1か月半ほどでOJTは終了した。その後は定期的にフォローしていく場を設けていった。については実施することができなかった。
		30周年記念行事の実施	記念誌の作成と記念式典を企画・実施		記念誌については期日には間に合うように作成することができ、周りから良い評価を頂いた。また記念式典も家庭的な雰囲気の中で執り行うことができた。

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部できた： 未着手・全くできていない： x
地域生活支援センター りんく	サービス向上	利用者一人ひとりの思いに寄り添い、その具現化に向けた取り組みの実施	利用者一人ひとりがホーム生活をしていく中で、小さなことでもいいのでやりたいことを一つ実現		個別支援計画に少しずつ利用者の思いが反映されてきている。また計画的な実施までには至っていないが、日々の支援の状況によって判断し、その思いに応えていく取り組みを実施してきた。
			ホーム会議 1回/月		計画通り1回/月実施することができた。利用者の健康状態や思いによる外出企画等をスタッフ同士で共有することができた。
		体験利用者の受け入れの継続と今後の方向性の立案	現在の体験利用者について今年度内の方向性の打ち出しと実施		関係事業所である愛光園と定期的な話し合いを実施してきた。体験宿泊の泊数を伸ばしていくことはできたが、一部に留まり、対象者全員を実施していくことはできなかった。
		障がいの重度化・重症化に伴うグループホームでの暮らしの検討の実施	利用者の重度化・重症化に伴うグループホームでの受け止めの統一した考え方とそれに必要な事柄を打ち出す		話し合いの場を設定して定期的な実施していく予定であったが、全体会議での既存の資料の確認のみしかできなかった。
		利用者から意見を聴き、分析した上でのサービスの質の向上	利用者から求められているサービスの把握と実施		利用者へのアンケートを実施し、意見を確認することと情報共有することはできたが、実際の場面に落とし込み実施するところまでには至らなかった。
			自己評価結果から出てきた課題の計画的な改善		自己評価を実施し、評価を分析し全体で確認することはできた。またその中から次年度に実施できる内容を事業計画に反映するところまでできた。
	地域の社会資源の一つとしての役割を果たす	他法人や利用希望者の見学の積極的な受け入れ		見学者の積極的な受け入れを目指していたが、余り申し込みがなかった。事業所のパンフレットを作成することはできた。	
		ボランティアや実習生の受け入れ態勢の整備		x 障がい事業部会議を活用して、ブロックの事業所へ来られた実習生の受け入れを画策していたが、実施することができなかった。ボランティア等の受け入れマニュアルの作成をしていくことができなかった。	
	スタッフの支援力・チーム力の向上	定期的な勉強会や研修会の開催	医療面に関する勉強会 2回/年 リハ(姿勢管理・摂食等)に関する勉強会 4回/年 救急救命講習会 1回/年 権利擁護・意思決定支援に関する勉強会 1回/年		救急救命講習会は実施できた。また権利擁護の勉強会を予定していたがコロナウイルスの関係で中止になってしまった。今年度は法人外の研修に3名参加することができた。法人内の実践発表会でも発表する機会を持つことができた。
		愛光園・のぞみの家との交換研修の実施	スタッフ男女各1名 各6回		男女1名ずつ、身障ブロックの事業所との交換研修を実施することができた。参加できたスタッフはとても良い経験になった。
		スタッフ個々の目標を設定し、達成できるような研修の実施	面談:3回/年		年3回の面談を実施することができ、スタッフ個々の思いや取り組み状況を把握することができ、研修参加に繋げることができたスタッフもいた。ただ、それが一部に留まってしまった。
		在宅支援のノウハウの拡充	在宅支援に派遣できるスタッフの人数の幅の拡充		計画的に進めていくことができ、在宅支援に派遣できるスタッフを増やしていくことができた。
		適切な情報共有の仕組みについての運用	サイボウズに替わるグループウェアの導入		サイボウズオフィスからサイボウズライブに移行し、運用状況を見てきた。情報共有は問題なく行うことができた。おぶちゃん連絡帳を活用して、関係機関との情報共有を図っていこうと考えていたが、登録だけに留まり活用までには至らなかった。
	働き続けたいと思える職場づくり	業務の整理・見直しを図り、適正な業務配分の実施	業務負担の均等化と業務遂行スタッフの拡充		コーディネイト業務に関しては進めていくことが難しかったが、居宅請求業務に関しては、業務分担を明確にし、サイボウズを活用して進捗状況を共有しながら取り組むことができた。
		有休休暇の計画的な取得の実施	有休休暇5日間の取得 次に特別有給休暇6日間の取得		有給休暇の取得については進めていくことができたが、計画的な取得を全体で取り組むことができなかった。
		地域や学生等に働きかけた人財確保	ヘルパー確保 3名 グループホーム従事者 2名		x 人財確保のワーキンググループを立ち上げたが機能していくことができなかった。学生等の人財の確保ができなかった。
		中期計画の作成	2020年度～2022年度の3年間の計画を作成 奇数月に会議を実施		奇数月に会議を実施し、スタッフから様々な意見を吸い上げることができたことは非常に良かったが、それを基に中期計画を作成することはできなかった。しかし、単年度で達成できる課題については、次年度の事業計画に反映することはできた。

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部できた： 未着手・全くできていない： ×	
まどか	サービス向上	ご本人の意思をくみ取り、思いの実現に向けた支援	ご利用者の意志の受け止めと実現に向けた支援	個別支援会議の本人参加	○	一部のご利用者の実施に留まった。
				スーパーバイザーによる助言を支援に反映	○	困難ケース・日中活動について7月,11月に助言を受け支援に反映させた。
				地域生活移行の実現に向けた、GHの体験利用の実施	×	なないろの家、まどかの支援体制が整わず実施できなかった。
	人財育成	ご利用者の心身状態の変化に対応した支援体制を整備	個別ニーズに応じた活動の提供		○	4月より活動編成変更。5,6,8月モニタリングと検討会議を実施。11月スーパーバイザーによる助言を受け12月以降各活動単位で見直しを実施した。
			自閉症スペクトラム障害の支援スキルを獲得する機会の設定		○	自閉症スペクトラム支援士による助言を活動場面や生活支援に取り入れた。行動援護従事者養成研修、法人内他事業所等の研修を受講。基礎的な知識を習得する学習会は計画できず未実施。
		身体機能の低下や医療と連携が必要なご利用者の支援スキルを獲得する機会の整備		○	健康管理研修は、6月～腸の働き、ケア、10月～緊急対応、2月～感染予防。実務者研修に3名受講した。救命講習・喀痰吸引研修は未実施。勤務体制が整わず、計画できなかった。	
		権利擁護意識の向上	権利擁護の取り組み	第三者評価	○	第三者評価を1月に受審し、3月末に評価結果確定。改善計画を立て順次実施していく。
				虐待防止学習会	○	事業所内で「これって虐待」というテーマでアンケートと学習会を実施。次年度も継続。
				スーパーバイザーによる虐待防止講義	○	11月に実際の事例を通した学習会を実施。スーパーバイザーより、権利擁護の視点で助言を頂いた。
	環境改善	ご利用者の快適で安全な暮らしの環境整備	利用者ニーズに応じた、安全に過ごせる居住環境の見直し	居住環境の見直し	○	3S担当者会議を毎月開催し、居住環境の見直しを検討、実施した。備品倉庫、物置の整理。廊下の備品移動・整理、居室収納の整理、落書き消し、衛生管理チェック等を実施した。
				女性トイレの洋便器化	×	業者と打ち合わせできず未実施。
				設備の改修	○	ろ過装置の修繕、熱交換器取り換え、濾材の交換・貯水槽非常時用蛇口設置を実施した。貯湯槽は未実施。
			災害への備え	非常災害対策計画・BCP	○	4月、10月に更新。周知は不十分。防災委員会にてBCPの学習会を実施した。今後も理解を深める。
				事業所内防災チームでの非常時の具体的対応についての検討	○	5,7,9月に実施し、ソーラ発電、井水切り替え、蓄電池等のマニュアル整備を行った。
			非常電源確保	○	発電機は未購入。蓄電池(2台)の使い方と必要な電源を整理し、再検討する。	
		働きやすい職場環境の改善	支援者の労働環境の改善	×	必要な業務に適切な人数を配置し時間外勤務を減らす。	
			3S担当者会議による備品収納の改善	○	3月に2階ホールに収納スペースを設置完了	
			記録システムの見直し	×		
		まどかの将来構想についての検討	まどか将来構想プロジェクトの設置			○
	他法人他事業所の情報の収集				○	施設長が見学や他施設の情報収集を行ったが、現場の支援員の見学は計画的に実施することができなかった。

事業所	項目	重点目標	目標		評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部できた： 未着手・全くできていない：×	
ひかりのさとファーム	生活介護の強化	障がい特性や活動内容に配慮した設備、スペースの確保	配慮した設備、スペースの確保	現在の建物の活用見直し、新しい作業場の検討		なんじゃ作業棟でなんじゃグループとからあグループの利用者があるべく重なり合わないよう動線を検討したが、入口が一カ所しかなく、重ならない動線を作ることはできなかった。そのため、活動内容は現状維持となっている。	
		緩やかな作業、体力維持・向上、余暇活動を検討、試行	個別支援計画に位置付け、3人以上体験実施	個別支援計画作成時にニーズ確認して位置づけ	×	作業以外の時間を作り出すことができず、新たに体験を実施することはできなかった。	
		中期計画の作成(2020～2022年度)	新卒業生の受入体制検討	地域のニーズ把握 特別支援学校・育成会等と意見交換		○	会議への参加と育成会のイベントで意見交換を行い、今後のニーズとしては生活介護希望の方が多いことがわかった。
			施設整備・修繕計画案完成	プロジェクトで検討			作業棟のラフスケッチを基に正職間で検討。大体のイメージを重ね合わせたところで、設計事務所に図面を依頼した。
			就労事業の統廃合	就労事業イメージのストーリーを踏まえて検討			再編プロジェクトの中で検討。2020年度内にパン工房を閉鎖することが決まった。残りのレストラン・コーヒー・養鶏については、B型ではなく生活介護として残す方向性となり、2020年度内に規模の維持・縮小を検討する。また、B型は施設外就労を2021年度から始められるよう検討に入った。
	就労継続支援B型の機能整理	強みに特化できるよう整理・再構築	就労事業イメージのストーリー作成	お客様目線でSWOT分析からストーリーテリング(正職会議で実施)	×	就労事業の統廃合の検討に重点を置いたため、未着手。	
		働き方ニーズの変化に対応	法人内施設外作業の見直し	現在の作業継続と新しい作業の検討	×	今年度は検討できなかったが、2021年度の施設外就労先として、法人内施設の作業請負が可能かどうか来年度検討していくことになった。	
			緩やか希望の方を生活介護への移行準備	個別支援計画作成時にニーズ確認して位置づけ		×	再編プロジェクトによる今後の方向性が決まったのが、遅かったため移行準備を進めることができなかった。
		職場きづくすい	部署間連携	部署間交換研修4回 業務マニュアル各部署2つ以上	部署間で応援欲しい内容を Teach me Biz活用して業務マニュアル作成		部署間交換研修は、予定通り実施できたが、応援が欲しい業務のマニュアル化までには至らなかった。今後は、マニュアル化を焦らず交換研修を実施していくことで、担当職員、交換できた職員の困りごとをまずは共有していく。
	専門性向上		強度行動障害支援者研修2名受講 介護福祉士実務者研修1名受講	法人内研修の活用(介護福祉士)		強度行動障害支援者研修は1名のみ受講。介護福祉士実務者研修は予定通り1名受講できた。	
	人財育成		インシデント11回 知的ブロック1回 事業所内2回	インシデント勉強会、知的ブロック勉強会 事業所内勉強会	○	インシデント勉強会、知的ブロック勉強会、事業所内勉強会は、予定通り実施できた。事業所内勉強会は、8月にたくと大府施設長の林氏を講師に迎え、「重度知的障がい・重度自閉症の人への権利擁護を意識した関わり」を、3月には青山部長を講師に迎え、「ファームの事業で大切にしてきたこと」を実施した。	

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部できた： 未着手・全くできていない： x
阿久比町立 もちの木園	工賃向上	就労継続支援B型の機能整備と利用者の工賃増の取り組み	就労継続B型と生活介護、2つの事業の住み分け		新館(生活介護)、作業室・自主作業室(就労継続支援B型)と両事業の住み分けを実施した。
			工賃規程の見直しと生産活動に係る事業に携わる利用者への工賃の増額		年度中に工賃支払規定の見直しができなかったが、2020年4月より生産活動に係る事業に携わる利用者へお支払いする工賃を80円から100円へ増額する。
			近隣イベント等へ積極的参加と地域との繋がりや活性化への貢献		町内及び協力企業のイベントへ年6回出店して、売上はもちろん、その活性化に貢献した。但し、パリエーションを増やせず、商品開発と販売チャンネル増が課題である。
	サービス向上	利用者一人ひとりが、「自分らしく」生活が営めるための支援	発達障がいのある利用者受入れに対応する、専門的スキルの向上		発達障がい者支援のエキスパートを講師に、週1回の現場指導及び月1回の勉強会を事業所内で継続して行った。
			利用者の障がいの特性や高齢化に伴う心身機能の低下等に対応した生活介護のプログラム充実とハード面における環境整備		新館の構造化を図り、個室スペースの確保など利用者の特性に合わせた環境を整えた。プログラムの充実については次年度の課題である。
			地域の方々のボランティアニーズや学生や実習生の方々の学びの場としてのニーズと事業のマッチングと地域交流の推進		日本福祉大学の学生とのコラボによる健康プログラムの実施等、学びの場としてのニーズに応える事ができた。但し、障がいの特性により外部の方を安易に受入れる事が困難となり、ボランティア等の受入れについては次年度の課題である。
	地域生活支援	関係機関との連携強化と地域の中での安定した生活支援	もちの木園利用者のグループホーム宿泊体験利用を2名以上		「グループホーム宿泊体験利用」について、女性1名が新たに利用され、2020年5月に「共同生活援助(グループホーム)」に完全移行する予定。但し、男性2名、女性1名が支給決定されていたものの体験利用には至らなかった。宿泊体験の場作りと人員確保が急務である。
			移動支援や通院等介助などの外部サービス活用と、より充実した地域生活の模索		移動支援に繋がるよう、年1回の個別(お好み)外出を取り入れたが、実際の利用へは繋がらなかった。
			グループホーム体験事業(自主事業)の利用促進とアセスメントによる利用者それぞれの課題の整理	○	男性4名が「グループホーム体験利用(自主事業)」を隔月で2名ずつ継続利用されている。女性については、次の移行者の選考が課題。

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部できた： 未着手・全くできていない： x	
愛光園地域居住サポートセンター	地域生活支援	地域生活支援ニーズを把握し、法人内各事業所・地域の関係機関と協議し、地域生活支援の機能を強化する。	高齢化・重度化に対応する支援体制の整備をはかる。	日中サービス支援型の制度利用に合わせて準備する。特にショートステイの開設を最優先で検討し準備をする。(あつたか生活支援センター)	x	日中サービス支援型への移行を検討したが、イメージが合わず中止した。
				高齢化対応の職員研修を実施する。(老年症候群、老年心理学等)		高齢化に特化した研修参加は少なく、認知症サポーター養成講座に参加した。
			住環境の見直しを行い、安心して健康な暮らしができるように改善をはかります。必要であるなら住み替えを実施	コア機能のあるグループホームの位置づけを試行。	○	3月に横根ホームを廃止し、東仙台ホームを開所した。本人のニーズに合わせて住み替えを実施。なないろ と川口ホームの連携は進んだ。
			グループホームの体験利用ができるホームを選定しサービス提供	入居者の暮らしやすさの視点に立った見直しを行い配置換えを実施して、体験用の部屋を4部屋確保する。		東仙台ホームの開所が遅れ、体験用の部屋は2部屋の確保にとどまった。
	働き方改革	働きやすい職場環境の改善に努め、地域生活支援の多様性の確保や質の向上に繋げる。	人垣(職員、ボランティア、短時間就労等)の充実をはかり、人財の育成と活用をはかる。	愛知県グループホーム世話人等確保支援事業等を活用		グループホーム説明会を12月、1月、3月の3回実施。4人参加し2人の採用に繋がった。
			ライフ・ワーク・バランスを推進する。残業時間の軽減(30%減)、平均有休取得率を50%にする。	労働時間の管理を一元的に実施できるツールを検討・試行し、年度内での実施を行う。		残業時間軽減や有給休暇取得は一部効果がみられたものの職員によりバラつきがあり、さらなる対策が必要。
			チーム支援体制を効率的に機能させる	24時間コール体制(携帯電話当番等)や生活支援員やヘルパーの巡回の仕組みを構築。	○	グループLINEはルールを決めて活用、夜間支援体制等でエリア連携を進めることができた。
			支援スキルの向上を図る	地域生活支援ハンドブックの作成や職員研修等を充実させる。	○	事業工程表やマニュアルからなるハンドブック2020年度版完成。外部研修への職員送り出しは計画的に実施することができた。
	本人主体支援	本人中心地域生活支援への仕組み作りをはかる	本人活動が発展できるように環境設定やサポートを行う。	パーソン・センタード・プランニングの実践を計画的に進める。	○	北野先生の研修を受け、アセスメントシートの一部見直しと、下期から活用を開始した。
				グループでの余暇活動を企画から本人参加ができるように展開させる。		長年続いていた生け花教室が無くなり、アンケートなど本人からの要望を受けて音楽活動を開始した。知多友の会の協力を得て料理教室を今年も開催した。

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部できた： 未着手・全くできていない： x
おひさま	サービス向上	昨年度行った児童発達支援ガイドラインの抄読会から見えてきた課題に取り組み、PDC Aサイクルができるよう努めます。	身体拘束について学びます		7月にNPO法人ゆう理事長豊田氏をお招きして研修会を行った。身体拘束を中心としながら、施設虐待や権利擁護の話をうかがった。また、午後グループワークをすることで、おひさま内で何が身体拘束に当たるか考えた。研修報告書を作成し回覧して感じたことを共有している。
			個別支援計画の項目の見直しをします	○	5月に職員会議で家族支援の目標について話し合った。家族支援の目標を立てるシュミレーションをしたところ、3つのカテゴリーに分けられた。また、年明けの会議で地域支援(地域連携)の目標のシュミレーションをする予定だったが、思考しやすい家族支援をそのまま深めることにして、地域支援は次年度に持ち越した。
			放課後等デイサービスについて感覚統合の視点を入れたあそびの充実を図ります		担当者が講師役となり、7月に感覚統合の勉強会を行った。その知識をもとに、9月から感覚統合を主とした活動を実施。10月に職員で振り返りをし、11月からそれを活動案に活かして3月末まで実施。その後、後期の総括で文書としてまとめた。
	地域連携	子どもの支援において、横のつながりと縦のつながりの両方を積み上げていくことが基本的な視点であり、特徴でもあります。そのため、各関係機関との連携を大切にします。	他事業所や学校、基幹相談センターと連携します	○	個別支援計画を保護者の了承の上、前期後期共にサービス等利用計画を作成している基幹相談支援センターにお渡した。また、7月に神田小学校に訪問し、放デイ利用者の担任と情報交換を行い、個別支援計画の目標や支援内容に反映した。成果はあったが、不安定さがある児童の関りに迷ったタイミングで随時やりとりができるとう良かった。
			大府市内の放課後等デイサービス事業所との連携を図ります		6月に定例会を行い、10月に日本福祉大学教授の木全氏による“性について”の勉強会を行った。20名強が参加。2月の定例会では、近況報告を行い連絡会の来年度計画を立てた。
	人財育成	自己研磨と共に、高め合う努力も大切です。園内研修をより充実させます。	園内研修を充実します		担当がテーマを選定し、それについての研修に足を運んで学び、まとめたものをその担当が12月に講師役となり講義を行った。講義を聞いた職員はもちろんだが、講師役となった職員が人に伝えるプロセスで一番勉強になったようである。
			子どもの成長源である“あそび”について見直します		6月に1回目の“あそび”の研修を行い、児童発達支援のクラスでは9～11月の活動内容に反映。その結果を12月の職員会議で、各クラスの“ベストオブあそび”として発表し共有した。
	その他	2020年の指定管理更新に向けて、事業の見直しや市との交渉に努めます	発達支援センターの役割を再確認し、事業の見直しをすると共に、安定的な事業運営ができるよう、市との交渉に努めます		2020年度の指定管理更新(10年間)に伴い、事業内容は整理されプロポーザルも終え、12月の議会で継続して当法人が受託することを正式決定されました。

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部できた： 未着手・全くできていない： x	
知多地域障害者生活支援センターらいつ	障害児等療育支援事業	早期療育支援の充実	通園施設立ち上げ・民間移行支援	南知多町どんぐり園支援	○	新規の対象から外れたが、回数を減らし、事例検討、運営の検討等を実施した。
				美浜町わかば園支援	○	新規の対象から外れたが、回数を減らし、事例検討、運営の検討等を実施した。
				常滑市ちよがおか支援	○	常滑市内の児童発達支援センターの役割やちよがおかでの療育の目的等を検討した。
			肢体不自由児受け入れ支援	大府市みのり支援	○	肢体不自由児受け入れ、新規立ち上げ含め、バックアップのため、研修を実施した。
				半田市つくし学園支援	○	肢体不自由児の受け入れのため、研修を実施した。
				東浦なかよし園支援	○	研修を実施した。
		重心事業所の交流会	課題検討	交流会実施		重心児童発達支援、児童発達支援センターの研修を行った。
		移行支援	事例検討会の実施	小学校にて実施	○	東浦町で実施した。
		本人の自律支援	特支級、特支校の本人の会結成	仕事研究会からの発展		仕事研修会、保護者グループワークからご本人の会を実施した。
		家族支援	父親の会設立支援	講演会の実施	○	父親の研修を実施し、会の立ち上げのための支援を行った。
	支援センターワーク 障害者就業・生活	関係機関との連携	ハローワークとの連携	連絡会の開催(3回/年)		計4回(半田3回、刈谷1回)
		障害者雇用の充実	就労支援の充実	支援者数(600人/年)		701人
				支援件数(5200件/年)		3,129件
				実習(40件/年)		32件
			就職数(55件/年)		31件	
	委託相談支援事業	地域移行支援の推進	病院・入所施設からの地域移行の推進	東浦町2名/年		3名地域移行支援を行った。
				阿久比町1名/年		1名基幹相談として後方支援中。
		相談支援の充実	相談件数	東浦町	○	計3,747件
				阿久比町	○	計2,985件
		相談者数	東浦町		延840人(実人数168人)	
			阿久比町		延708人(実人数124人)	
	こだま	サービス等利用計画の更新	本人主体の計画作成	サービス等利用計画作成	○	計84件 滞りなく予定通りの計画作成が行えた。本人が安心して豊かな生活を送れるようサービス内容や時間を受給できるようご家族、行政・関係事業所と連携し、計画を作成した。
				継続サービス等利用計画作成	○	計417件 ご家族や関係事業所と連携を図り、サービス提供状況とご本人の意向の把握に努め、安定したサービス利用継続が出来るよう、継続サービス利用計画の作成を行った。
				まどかのぞみの家からの地域移行支援		計0件 ご本人への意向確認を行った。2施設からの地域移行支援に向けた計画はなかった。
	レスパイト	その人らしい生き方の支援	部屋の環境整備	和室の構造化		布団の補充など環境の整備はしたが、構造化は行わず
			個別支援ツールの改善	6月、10月	○	随時行う
サービス内容の見直し			短期入所の検討		検討はしたが、具体的な立案まではいかず	
居宅介護等 行動支援	地域の福祉ニーズへの対応	利用者数 12.5人/日	契約者の増員	○	契約者は増員できた	
		登録ヘルパーの活動時間(移動支援)190時間/月	ヘルパーの確保(3名)	○	3名は確保したが、平均190時間は達成できず	
		移動支援モニタリングの実施	モニタリングの実施		一部できた	

事業所	項目	重点目標	目標		評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部 できた： 未着手・全くできていない：×	
知多地域障害者生活支援センターららいふ	日中一時	その人らしい生き方の支援	サポートブックの更新	6月	-	7月に放デイへ移行のため未実施	
		地域での福祉ニーズへの対応	利用者平均4.5名/日	利用者の増員	-	7月に放デイへ移行のため未実施	
		地域貢献・情報発信・地域連携の推進	自立課題、支援ツールの紹介(フェイスブックへ掲載 1回/3か月)	6月、9月、12月、3月	-	7月に放デイへ移行のため未実施	
	放課後 ピ等 デイ サイ	地域での福祉ニーズへの対応	勉強会、懇親会の実施	10月	○	保護者懇親会12月に開催	
			平日9名、土曜日6~7名の利用	各曜日9名の契約者の確保		月、火、金は9名契約。水、木が8名	
			利用者平均8名/日			平均7.2名	
	共通	人財の確保・育成の推進	サポーターの確保(5名)	サービスラーニング受け入れ(2名)			2名受け入れ
				大学のサークルへの働きかけ 10月	×	未実施。サポヘルさんへの呼びかけのみ	
			学生ヘルパーの確保(3名)	介護初任者研修の助成制度の活用(3名)			3名活用
				ヘルパー実習生の受け入れ 1月2月	-	4名受け入れ予定だったが、コロナ対策によりキャンセル	
			スタッフのスキルアップ	会議での10分勉強会	○		
				そら・ららいふ合同勉強会(1回/年)			1回実施
			サポーターの育成	利用前レクチャー、利用後フォローの徹底			
			職員採用説明会への参加者3名	実習生、ヘルパー、ボランティアへの働きかけ			サポヘルさんから2名。インターン参加者から複数名
	地域貢献・情報発信・地域連携の推進	ボラみみの更新(1回/月)	毎月				
中期計画を作成	老朽化した建物の将来像の素案の作成	検討会の実施			希望の間取り作成		

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部できた： 未着手・全くできていない： x	
就職トレーニングセンター	利用者満足度の向上	就労移行支援	年間就職者数10名の達成		前期は毎月1名ずつの就職者を出すことができたが、後期は10月、11月、1月の就職者を出すことができなかった。年間就職者数10名の達成はできた。来年度は見学、実習に行くご利用者を毎月確保していくことで、安定した就職者数につなげていく。	
		就労定着支援	定着支援の充実 定着支援利用者の定着率90%以上		定着支援の方で離職される方はいなかったが、慣れてきたが故の会社の方と本人のズレを感じる場面は多く感じた。訪問時に双方に聞き取りをし、関係機関と連携を図りながら早急に対処できたと思う。今後も、面談での聞き取りや必要であれば早い段階でサポート会議を開き、お互いが気持ち良く働けるよう支援をしていきたい。	
		健全な事業運営	日々の利用率80%以上		年間平均85.4%。例年であれば落ち込む9月以降に契約が継続したこと、送り出しのペースが緩やかであったことが重なり、目標は達成できた。また、チラシやインターネットの活用も検討し、効果の有無についても少しずつ見えてきている状況。 事業所の形態上、ある程度は仕方ないが、通所日数が安定しないまま利用終了となるご利用者も少なからずいるため、様々な就労支援方法の検討や、相談スキルの向上は今後も必要になると思われる。	
	就労支援体制の構築	人財育成プログラムの充実	人財育成 OJT・専門性の向上(就労支援・発達障害・精神障がい)			相談支援初任者・サビ管(青木・増田)、就労支援基礎講座(増田)、東京・神奈川他事業所見学(所・辻)、発達障害者支援研修(松久)など計画通り実施できたことや、アンガーマネジメント、意思決定支援など、必要に応じて、外部研修等に参加することができた。
			プログラムの充実 アセスメント・情報共有と伝達の仕組みづくり			仕事ナビ、knowbeの運用が開始できた点は大きな進歩と考えられるが、会議が予定通りに開催できていない、直接支援のスキル向上に結び付きにくいかったなど反省点も多い。日々のご利用者との関わりが最も密になるプログラムを担っていることを意識し、会議体を職員会議内で時間を取るなど工夫をし、事業所全体として「何を伝えるか」の骨格を再構築していきたい。
		連携強化 (必要時に迅速な対応ができるように、顔の見える関係性を築く)	医療/地域関係機関との連携強化を図る			Kさんの定期的な通院同行はできたが、他の利用者の医療との繋がりが現在ではほぼない。今後、本人を長く支援するにあたり繋がっておく必要性はあると感じるため、関係機関はもちろん、医療との繋がりに力を入れていきたい。
		就労前の児童を対象とした将来を見据えた支援体制の構築	・法人内 療育～放デイ～就労移行【長所を褒めて伸ばす支援の実践】 ・情報収集と連携方法の検討			らいふ放課後等デイサービスin就トレの継続受け入れ、6/20学齢期保護者向け事業説明会をはじめ、碧南教育講演会や阿久比中特支講演会等を行った。障がい事業部ブロック会議にて、小中クラス、高等部クラスに分け、発達段階に合わせたプログラムとなるよう再編を行った。
	「共に生きる」実践と社会貢献	誰もが働きやすい職場	笑顔であいさつ運動の推進		○	日常の挨拶や返事等は電話対応やお客様対応もとても感じよく出来ている。チェックシートの記入忘れの0を目指し、日々の挨拶を振り返る。
			6S運動の推進 (整理・整頓・清潔・躰・清掃・習慣)		○	皆さん社会人として、6S運動しっかりできていた。これからも働きやすい職場であるために、ご利用者の方たちに質のいい支援をするために、6S運動を意識していく。
			カイゼン活動の推進		○	改善提案が沢山出される時と、全く出ない時と、かなり差があったが、緊急事態に対応するための改善が出来た。働きやすい職場にするためにはどうすると良いか、常に改善を意識していく。
		地域貢献活動/情報発信	Facebook・仕事ナビ等 SNS更新(1回/1W)		○	月によって毎週の更新ができなかったときもあったが、おおむね定期的な更新を行うことができた。今後は現在活用しているSNSだけでなく、例えばTwitterなど別の方法の活用の検討し、より幅広い方々に情報を発信していく。
			就労にかかわる支援機関、企業等への貢献活動			法人内ビジネスマナー研修をはじめ、大府福祉会職員向けのビジマナ講座を行った。もちのき特支教職員向け事業説明会、放課後等デイわかばの杜向け説明会など依頼があれば対応できた。
			自立支援協議会の働きかけ		○	大府市内在勤・在住の方向け当事者活動部会の組織化を図り、「フリーライフ」を立ち上げた。来年度以降、事業継続運営のため、大府市障がい者雇用事業所連絡協議会から運営費の協力を得る。

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部できた： 未着手・全くできていない：×	
介護老人保健施設 相生	認め合い許し合う現差別的のない社会の	地域の福祉ニーズに応えます	本年度中に在宅復帰強化型算定要件の整備	○	在宅復帰強化型の算定要件は満たしていたが、職員体制が不安定であったため、加算の申請を見合わせる結果となった。	
			自宅訪問等による在宅生活の課題の明確化・具体的な目標を掲げ日常生活動作の中に取り入れる事によるADL・IADLの向上と、在宅生活の継続、復帰の促進自立支援、権利擁護の推進		多職種参加による入退所訪問を模索してきたが、職員体制が整わず日程調整に苦労した。また利用者ごとに担当職員を設定し、利用計画の策定を始めているが、日々の支援に生かすまでには至っていない。 看取りについては、一時帰宅の実現などご本人や家族の思いに沿ったケアを進めてきた。今後は終末期について事前にご本人やご家族と話し合う機会を設けたり、看取り後の振り返りについて充実させていきたい。	
			在宅と連携強化し切れ目のないケアマネジメントの充実	○	在宅サービスとの連携を強化するための月一回の総合相談会議を開催した。今後はさらに内容の充実を図る必要がある。	
	人財の確保・育成を進めます。	人財の確保・育成	管理職候補の育成の強化			計4名の職員の配属棟の異動を行いスキルアップの機会を設けた。次年度は内外への研修参加を進めたい。
			動画も含めたマニュアル整備の推進とサービスの標準化	○		
			実務者研修受講推奨	○	実務者研修受講を促し介護福祉士資格取得者の増員につながり、充実を図ることができた。	
			認知症介護実践者研修受講推奨	×	職員体制が整わず、参加を促すことはできなかった。	
			介護プロフェッショナルキャリア段位制度導入を進めます	×	職員体制が整わず、参加を促すことはできなかった。	
		明るく働き甲斐があり、働き続けられる職場づくり	年間計画を作成し計画的に有給休暇取得推進			職員不足のため計画的には行えなかったが、最終的には全職員就業規定にある、年6日以上の有給取得は行えた。
			ICTの活用方法の改善			ICT補助事業を活用し、ケア記録システムの更新とケアマネジメントシステム(R4システム)の導入により、利用計画・利用記録・請求業務を一気通貫で行うことができるようになった。
	多様な人財の活用	ノーリフトポリシーによる介護機器の導入			東浦町社会福祉協議会より特殊浴槽の譲渡を受けた。介護リフターの購入は意見がまとまらず、購入計画が進展していかなかった。	
		EPA・外国人技能実習生の受け入れ	○	ベトナムEPA候補生への法人説明会に参加し、2名候補生と契約に至り2020年度中に来日される予定である。 同規模の3つの社会福祉法人が連携して国際セミナーを開催し、ベトナムのフエ大学との交流を深め、学生への福祉教育プログラムの開発・実施に向けた検討を開始した。		
	新しい時代にあつた事業経営の展開	経営の安定と夢の実現	稼働率98%、経常利益5千万円			職員体制がきびしく下半期において利用調整を行ったため、年間の平均稼働率92.83%となり目標の98%を大きく下回る結果となった。経常利益65,525千円(大口の寄付金あり)となった。
			わくわく夢プランを実行	○	わくわく夢プランの実現に向けて、居酒屋み～こを年3回開催することができ、また中庭の花壇の整備や畑の充実を図り環境を生かした取り組みを行った。	
		内部統制の強化	会計監査人の導入の準備			会計監査人の導入に向けて適正な事業所運営を行うための事務資料の整理を試みたが、制度施行の延期もあり予定通りに進めることができなかった。
地域貢献・情報発信・地域連携の推進		地域への出前事業の実施と地域貢献事業の具現化			地域貢献活動として職員派遣による地域サロンへの出前講座を年5回実施し、目標を上回ることができた。	
		SNSを活用した情報発信の充実	×		役割や方法を明確にできず、ほとんど活用することができなかった。	

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上：一部 できた： 未着手・全くできていない：×
デイサービスセンターこぶし	支援 いきいき 人の方 らし	認知症支援	認知症進行予防リハビリテーションのプログラム化と実践、見える形での報告	○	大人の学校を下期に導入できた。
		機能訓練が継続できる デイサービス	通り八卒業後に継続した機能訓練実施4名	○	ルーチン化したわけではないが、2件はあった。
	育成 人財の 確保	サービスの標準化	だれもが同じ時間で同じ質と量の仕事ができるための標準化	○	映像化以外は進んでいる
		権限移譲の推進	一部に偏る業務を分散し全体のレベルアップの促進	○	非常勤職員の能力を活かす権限委譲ができた。
	新しい 時代 に あ っ た 運 営	経営安定	経常利益1500万円	×	全く届かず。対策も十分にできなかつた。
		ICT活用による効率化、省力化	ICTIOTによる自動化を推進	○	けあ樹活用はできた。合理化にはまだ課題がある。
相生通所リハビリテーション	支援 いきいき 人の方 らし	在宅復帰後の受け皿としての退所支援	在宅復帰後の支援継続実績4名	○	3名できた。定型化したい。
		「卒業」できる通所リハビリテーション	リハを終了しデイに移行の実績4名	○	実績は2名。
	育成 人財の 確保	サービスの標準化	だれもが同じ時間で同じ質と量の仕事ができるための標準化	○	映像化未着手。
		権限移譲の推進	一部に偏る業務の分散と全体のレベルアップの促進	○	非常勤職員にも効率的な業務分担を実施できた。
	新しい 時代 に あ っ た 運 営	経営安定	経常利益1500万円	×	利用率が低下し、改善策も出せなかつた。
		ICT活用による効率化、省力化	ご利用者状況と運営管理を一元化した省力化	○	ケア樹からR4に移行できた。
グループホームくせいの家	支援 いきいき 人の方 らし	在宅復帰の選択肢になれるか	老健からのスムーズな受け入れ対応		年2件を目標にしたが、1件だった。
		学習会などで地域貢献を実施	勉強会開催		1回育成研修を行い、キャラバンメイト資格を取得した。
	育成 人財の 確保	働きやすさの具現化	有給消化率50%		新規付与分について、計画的付与を実施できた。
		サービスの標準化	だれもが同じ時間で同じ質と量の仕事ができるための標準化		間接業務の時間軸はできたが、映像化は手が付けられなかつた。
	新しい 時代 に あ っ た 運 営	経営の安定化	経常利益1000万円(6,12,3月以外の単月100万円黒字)	×	全く及ばなかつた。
		設備老朽化	浴室の改修による生活環境改善	×	現実的に難しい判断
ICT・介護機器の導入・活用		電子カルテを活用し、記録等省力化	×	省力化はしたが、ペーパーは残ったまま。	
相生指定居宅介護支援事業所	支援 いきいき 人の方 らし	在宅復帰後の地域生活継続支援の実践	老健相生からの依頼はすべて受託	○	すべては受けきれなかつた。
		障害福祉サービスとの連携を強化	スムーズな介護保険移行と協働、数年後を見越したマネジメント実施	×	実施できなかつた。
	育成 人財の 確保	介護支援専門員取得の促し	勉強会開催 1回以上実施し事業部全体に意識付け	×	相生勉強会に参画できなかつた。
		同じ水準の業務の実施	間接業務について、映像、マニュアルなどで統一された支援を実施	×	研修派遣はできても効果は見られなかつた。
	新しい 時代 に あ っ た 運 営	経営状況の改善	6,12,3月以外の単月黒字化	○	なんとか単月黒字もあった。
		ICT活用による効率化、省力化	電子化し共有、可視化し標準化を進める基盤の作成 ケアプランにAI活用で選択肢を広げる	×	進まなかつた。

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上： 80%以上： 一部できた： 未着手・全くできていない： ×	
相生ヘルパーステーション	その人らしい生活支援	生活リハビリを意識したホームヘルプサービスの実践	生活機能向上を目標にリハビリスタッフとの連携を強化	×	潜在的ニーズの掘り起こしに至らなかった。	
		想いに沿った訪問介護計画書を作成し、地域生活支援を推進	各事業所との連携を図り地域での生活を支援	○	重介護の方の地域生活支援を実践できた。	
	人財の確保育成	法人内事業に人財派遣での貢献	法人内事業への人財派遣	○	通所へ継続的に応援できた。障がい事業へも少しできた。	
		働きやすい居心地の良い職場環境のための5S活動	5S活動の徹底・継続	○	しっかりできたが、まだ上がある。	
	あ新営	障がい部門との連携による訪問ニーズへの対応	障がい福祉サービスも受け入れられる体制づくり	×	事業申請、連携、強化できなかった。	
ICT活用による効率化、省力化		業務標準化し省力化のための間接業務の電子化	×	実践できなかった。		
企画総務部	共生社会の実現	地域のニーズに対応した事業の充実	福祉・介護・医療の連携	協議体への参画と各事業へのフィードバックを行う		各種協議体に参加はしたが、フィードバックができていない。
			共生型サービス・混合型サービスのニーズ把握	市町でのアンケート調査等の分析。各種団体等からの意見聴取	×	共生型サービスの需要を感じられなかったため、調査もせず。
		柔軟かつ効率的なサービス提供体制の構築	既存の仕組みで不合理なところを改善する	請求・購買等の事務の効率化	×	支払いシステムの見直しを検討したが、コストと作業負担の軽減が見合わず、見送った。
		災害発生時の対応整備	BCP（事業継続計画）の策定	他法人の事例を参考に計画の骨子を設定		委員会での検討は難しいので、経営・管理の立場の者で、方針を定める。新型コロナウイルス対策では、ひな型を活用して対応した。
	人財確保と育成	総合的な福祉人財の確保	多方面からの多様な人財の円滑な受け入れ	各種の採用活動の実施とマニュアル作成の支援		採用活動は、新卒については例年でない成果を上げた。中途では、特に紹介会社経由では短期間で退職する人が多く、見直す。マニュアル作りは進んでいない。
		多様な働き方により勤めやすく休みやすい職場を作り	実効性のある働き方改革の実施	改正規程の円滑な運用とキャリアパス、雇用形態の見直し		有給休暇の取得は、前年度よりも進んだ。しかし事業所・職種によって大きな差がある。
	新しい法人経営	内部統制の適正化	業務標準の整備	公認会計士等専門職の支援のもと改善		依頼する公認会計士事務所を選定し、課題の洗い出しや、その対応を行った。課題は多く、できるところから進めていく。
		地域貢献・情報発信・地域連携	社会福祉法人に求められる役割を、地域ニーズとのやり取りによる明確化	見学会の開催、広報誌、HP、SNSの充実、啓発による福祉人財・ボランティアの養成		SNSの活用などは行ったが、事業所間での取り組みの差が大きい。福祉人財では、実務者研修や合同の研修の企画を行った。ボランティアの養成などは手付かずだった。
		中期計画（2020-2022年度）の策定	計画の策定と周知	これまでの議論から課題整理のと懸案をプロジェクトにて検討		船井総研の協力を得て、中期計画を作成した。

	雇用形態	平均勤続年数	平均年齢	職員実人数 (3月末現在)	常勤換算職員数			退職者比率 (正職)	新入職員定着率
					直接処遇職員	その他の職員	合計		
ひかりのさと のぞみの家	正規職員	9.7	39.4 歳	31	25.80	4.00	29.80	8.16%	76.92%
	非常勤	7.9	51.5 歳	44	15.10	14.00	29.10		
	派遣					2.90	2.90		
まどか	正規職員	12.1	37.8 歳	19	17.40	1.80	19.20		
	非常勤	10.1	55.0 歳	16	8.10	1.00	9.10		
こだま	正規職員	33.0	57.0 歳	1	1.00	0.00	1.00		
	非常勤	34.0	62.0 歳	2	1.60	0.00	1.60		
愛光園	正規職員	8.7	31.5 歳	12	12.00	0.00	12.00		
	非常勤	8.8	50.9 歳	22	12.70	2.10	14.80		
居住サポート	正規職員	17.0	44.6 歳	5	5.00	0.00	5.00		
	非常勤	9.6	62.5 歳	30	18.80	1.00	19.80		
あったか	正規職員	10.3	39.3 歳	3	2.50	0.00	2.50		
	非常勤	9.0	55.3 歳	2	2.20	0.00	2.20		
りんく	正規職員	10.4	34.5 歳	19	19.00	0.00	19.00		
	非常勤	7.8	51.0 歳	22	9.50	0.70	10.20		
	派遣						0.00		
らいふ 直接支援	正規職員	8.9	32.1 歳	8	8.50	0.00	8.50		
	非常勤	3.9	38.7 歳	20	4.54	0.00	4.54		
らいふ 相談	正規職員	12.2	45.6 歳	7	8.50	0.00	8.50		
	非常勤	5.6	50.0 歳	7	4.20	0.00	4.20		
大府市 発達支援 センター おひさま	正規職員	9.4	38.7 歳	16	13.50	2.00	15.50		
	非常勤	5.6	47.3 歳	24	7.90	0.90	8.80		
ひかりのさと ファーム	正規職員	10.0	37.8 歳	8	7.00	1.00	8.00		
	非常勤	8.3	54.0 歳	21	13.10	1.60	14.70		
	派遣			4		1.20	0.60		
就トレ	正規職員	12.8	37.3 歳	4	4.50	0.00	4.50		
	非常勤	2.7	41.0 歳	3	3.00	0.00	3.00		
阿久比町立 もちの木園	正規職員	15.0	42.5 歳	4	4.00	0.00	4.00		
	非常勤	5.2	46.0 歳	6	2.80	0.50	3.30		
相生	正規職員	7.5	38.7 歳	33	32.30	1.00	33.30		
	非常勤	6.0	45.4 歳	31	19.60	2.00	21.60		
	派遣			4	3.50		3.50		
通り八	正規職員	10.0	38.0 歳	6	6.00	0.00	6.00		
	非常勤	3.8	48.3 歳	4	2.60	0.90	3.50		
	派遣			1	1.00		1.00		
居宅介護	正規職員	15.0	58.0 歳	1	1.00	0.00	1.00		
	非常勤	9.3	63.0 歳	3	2.80	0.00	2.80		
相生ヘルパー	正規職員	22.0	44.0 歳	1	1.00	0.00	1.00		
	非常勤	14.8	60.4 歳	12	6.30	0.50	6.80		
こぶし	正規職員	8.5	31.5 歳	2	1.40	0.00	1.40		
	非常勤	2.3	39.0 歳	10	6.80	0.70	7.50		
	派遣			1		1.00	1.00		
もくせいの家	正規職員	13.6	39.8 歳	5	3.60	1.00	4.60		
	非常勤	2.2	47.0 歳	6	6.60	0.00	6.60		
	派遣			1	1.00		1.00		
本部・企画総務	正規職員	19.6	50.9 歳	9	0.00	8.80	8.80		
	非常勤	15.6	52.0 歳	5	0.00	4.40	4.40		
合計	正規職員	10.8	38.8 歳	194	174.00	19.60	193.60		
	非常勤	7.8	51.1 歳	290	121.04	30.30	178.54		
	派遣			11.0	5.5	2.2	10.00		

		年間稼働率	人件費比率	サービス活動増減差額比率	自己純資産比率	現金預金保有率	ボランティア数	上段 実習受入 数(人日)	
		定員に対してどれだけ提供できているか	職員配置の厚さ 人件費/サービス活動収入	利益を出しているか	資産の蓄積割合	支払能力		下段 実人数	
ひかりのさとのぞみの家	生活介護	85.94%	70.28%	0.89%	36.07%	12.03%	1,050	233	
	施設入所	96.96%						51	
	短期入所	105.67%							
まどか	生活介護	87.69%	64.54%	8.27%	65.25%	11.92%	551	74	
	施設入所	72.07%						12	
	短期入所	61.20%							
	日中一時	30.46%							
愛光園	生活介護	89.00%	83.89%	-5.16%	-73.73%	4.69%	428	100 20	
居住サポート	福祉ホーム	86.43%	75.26%	-2.18%	70.52%	19.23%	168	0	
あったか	居住サポート あったか	61.67%					61	0	
りんく	共同生活援助	63.00%	76.09%	2.45%	87.70%	14.49%	103	0 0	
らいふ生活支援	日中一時・放デイ	80.33%	64.91%	10.61%	67.53%	8.14%	7	23	
	ホームヘルプ								
らいふ相談	相談	-	78.74%	12.52%	48.24%	74.65%		11	
	ワーク・療育	-	79.77%	0.63%	39.02%	80.12%			
大府市発達支援センターおひさま	発達支援	82.68%	82.44%	3.74%	50.68%	78.64%	156	313	
	早期療育	69.71%						37	
	放課後デイ	70.71%							
ひかりのさとファーム	生活介護	94.42%	58.84%	-3.11%	65.97%	31.41%	156	70	
	就労B型	104.54%						2	
就トレ	就労移行	85.43%	65.21%	20.98%	92.87%	17.15%	1	5	
	就労定着	61.46%						22	
阿久比町立もちの木園	生活介護	106.69%	71.83%	5.84%	65.37%	47.26%	220	7	
	就労B型	91.98%						1	
相生	老人保健施設	92.85%	56.82%	7.43%	-65.44%	17.12%	340	94	
通り八	通り八	87.97%	65.82%	-17.92%				170	15
									4
居宅介護	居宅介護	83.66%	93.75%	-9.50%				0	6
					2				
相生ヘルパー	訪問介護	74.93%	85.56%	3.49%	0	0			
						0			
こぶし	老人デイ	82.00%	56.84%	12.36%	108.71%	0.44%	60	12	
								4	
もくせいの家	認知症高齢者共同生活介護	70.52%	102.91%	-29.58%			88	0	
								0	
本部・企画総務	本部・企画総務	-	1280.05%	-2220.61%	22.91%	3.23%	0	0	
合計	合計	-	72.17%	-3.12%	33.38%	9.83%	3,559	952 191	

人件費比率について、分母を資金収支計算書の事業活動収入からサービス活動収益に変更しました。